

第61回

森が育む あなたの心 森を育む あなたの手

全国植樹祭 かながわ 2010



基本計画



神奈川県

第1章 開催概要

1 開催方針	1
2 開催理念	2
3 県民運動の推進	3
4 県産品の活用について	3
5 大会テーマ	4
6 シンボルマーク	4
7 大会ポスター原画	4
8 開催時期	5
9 主催	5
10 開催規模	5
11 開催会場	5
12 開催地概要	6

第2章 お手植え・式典行事計画

1 基本的な考え方	9
2 演出概要	10
3 式典進行スケジュール	11

第3章 植樹行事計画

1 基本的な考え方	12
2 お手植え計画	13
3 お手播き計画	14
4 代表者記念植樹計画	15
5 参加者記念植樹計画	15

第4章 会場整備計画

1 基本的な考え方	16
2 施設配置図・イメージ図	17
3 主要施設計画	19
4 サイン計画	20
5 電気・給排水・通信設備計画	21
6 飾花計画	22
7 会場内動線計画	23
8 サービス広場計画	26

第5章 運営計画

1 基本的な考え方	27
2 招待計画	27
3 参加者行動計画	28
4 受付計画	29
5 特別接伴計画	30
6 昼食計画	31
7 医療・衛生計画	32
8 消防・防災、警備計画	32
9 実施本部計画	33
10 研修リハーサル計画	34
11 雨天時・強風時対応計画	35

第6章 宿泊・輸送等計画

1 基本的な考え方	36
2 宿泊計画	36
3 輸送計画	38
4 視察計画	42

第7章 サテライト会場計画

1 基本的な考え方	43
2 開催概要	43

第8章 荒天時式典計画

1 基本的な考え方	45
2 荒天会場	45
3 開催規模	45
4 荒天時運営計画	46
5 荒天会場施設配置図	47
6 荒天時への切り替えシステム	48

第9章 県民運動計画

1 基本的な考え方	49
2 運動の進め方	49
3 県民運動を促進する、神奈川力について	50
4 運動の推進組織	51

第10章 記念事業等計画

1 基本的な考え方	52
2 記念事業の内容	52
3 関連事業等の内容	54

第11章 広報・協賛計画

1 基本的な考え方	56
2 広報計画	56
3 協賛計画	58

資料 1

かながわ森林再生50年構想	59
---------------	----

資料 2

全体スケジュール	60
----------	----

1 開催方針

(1) はじめに

全国植樹祭（第20回大会までは「植樹行事ならびに国土緑化大会」、第21回大会からは現行の「全国植樹祭」が正式名称となっている。）は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、毎年春季に、社団法人国土緑化推進機構と開催都道府県の共催により行う国土緑化運動の中心的行事で、昭和25年以降、持ち回りで開催されており、本県で、平成22年春に「第61回全国植樹祭」が開催することが決定されました。

これまでこの大会では、天皇皇后両陛下にご臨席を賜り、県内外から多くの参加者にお集まりいただき、式典行事や記念植樹などが行われております。

本県での開催は初めてとなりますが、昭和24年に天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、箱根町仙石原で開催した「愛林日植樹行事」が、全国植樹祭の原型を創造する役割を果たしたと言われております。

(2) 開催意義

本県には、丹沢大山や箱根といった山々から、里山や市街地近郊の樹林地まで、国土の40%近くを占める、約95,000^㉒もの森林があります。

しかしながら、近年、標高800メートル以上の奥山では、ブナやモミの立ち枯れや風衝地等不適地への造林による荒廃が目立つようになり、その下に広がる標高800メートルから300メートルの山地や標高300メートル以下の里山では、スギやヒノキの人工林、広葉樹林を問わず、手入れ不足等で下草がなくなり表土が流れ出すなど、県内各地で森林の荒廃が進んでいます。

一方、森林に対する県民の期待は、木材や燃料の提供といったことから、降った雨を蓄え、ゆっくりと流すとともにきれいでおいしい水を育む水源のかん養や、山崩れや土砂の流出を防ぐ災害の防止、野生生物との共生、さらには都市に住む人々の潤いや安らぎなどに大きく変化してきています。

これに加えて、花粉症問題の深刻化に伴い、花粉の主な発生源であるスギやヒノキの人工林に対する施策が、強く求められるようになっていきます。

こうした状況を踏まえ、本県では、平成19年度から「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」に基づく「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」による特別対策をスタートさせ、水源の森林づくり事業の加速化などを図るとともに、さらに、今後、半世紀をかけ、「かながわ森林再生50年構想」により、荒廃森林の解消と混交林の拡大を図るなど、森林を抜本的に再生していくこととしています。

平成22年の全国植樹祭は、50年後の神奈川の森林の新しい姿を県民全体で共有し、協働して取り組む本県の森林再生を、全国に発信しながら、さらに前進させる大きな節目として開催するものです。

(3) 計画における共通事項

■環境への配慮

計画全般にわたり、準備の段階から、CO₂の排出量削減や廃棄物減量化（ゼロエミッション）するため、地元産品を使用するなど、地球環境に配慮した大会とします。

■おもてなし

会場は、すべての参加者が安全、快適、清潔に過ごせるよう、ユニバーサルデザイン※に極力配慮し、招待者におもてなしの心でサービスを提供します。

■神奈川らしさ

全国植樹祭や開催までに実施する各種イベント等は、「かながわ」の特色を十分に生かした内容とします。

※ユニバーサルデザイン

障害者、高齢者、健常者の区別なしに、すべての人が使いやすいように製品・建物・環境などをデザインすること。

2 開催理念

全国植樹祭の開催を通じて、森林再生に向けた神奈川の取組を発信し、全国との交流を図ることにより、本県が目指す森林再生の姿と手法を、より一層確実なものにするとともに、県民協働のうねりを高めて、誰もが森林と積極的な関わりを持ち、その恵みを実感できる社会の実現を目指すこととします。

理念展開イメージ

大会テーマ

森が育む あなたの心 森を育む あなたの手

第61回全国植樹祭 展開コンセプト

神奈川県は、**発信** + **協働** + **前進** を形にして、
一步先へ行く新しい植樹祭を展開します

展開のコンセプトワード

One Step , **One Lead**

ワンステップ

ワンリード

一步リードした神奈川県を発信

- ・神奈川県で行われた「愛林日植樹行事」は、全国植樹祭の原型をつくりました。
- ・神奈川力(先進力+協働力)を植樹祭に活かし、県と民、民と民の連携をつくります。

神奈川県民一人ひとりの一步が、目指すべき森林を創造

- ・森林再生に向けて踏み出す一步の力を大切にし、県民の行動を喚起します。

第61回全国植樹祭を機に、さらに一步先へ

- ・この大会をきっかけに、森林再生に向けた県民協働をいっそう盛り上げます。
- ・地域特性に応じた、50年後の目指すべき森林の姿をイメージしながら活動します。

展開のための要素

取組みの発信

〔神奈川県取組〕

- ① かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画
- ② かながわ森林再生50年構想
- ③ その他、県民運動など

県民全員参加

〔植樹祭当日の参加〕

- ① 植樹
(植樹会場、サテライト、他)
 - ② 式典(アトラクション、出展、運営スタッフなど)
- 〔当日以外の参加〕
- ① 事前行事(苗木のホームステイ、イベント、など)
 - ② 県民運動、募金・協賛など
 - ③ 植樹、木材の利用、活動の支援協力、など

環境コンシャス※

〔環境にやさしいイベントの計画〕

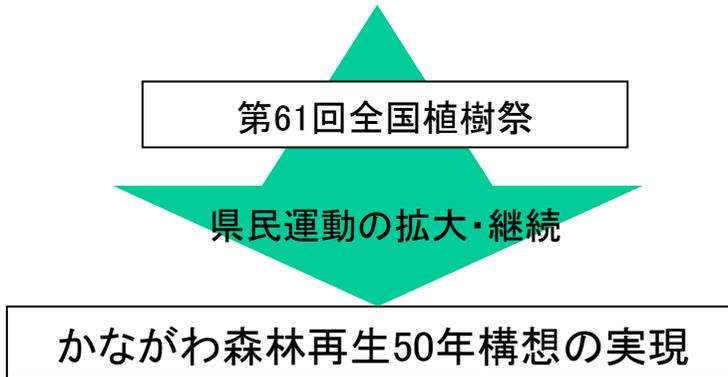
- ① 資材・エネルギーの購入、工事、出展、運営、運輸、ごみの削減など、全分野で環境に配慮
 - ② 本大会で導入・実践する環境対策をアピールし、環境に対する意識向上を図る
 - ③ 環境配慮のための実施計画書を作成し、運営体制を整える
- ※環境コンシャス意識して、環境に配慮すること

神奈川力

新しい時代を切り拓く「先進力」と、県民・NPO・企業など多様な主体と行政とが力を合わせて地域を支える「協働力」によって、神奈川の新たな時代を創造

3 県民運動の推進

- 全国植樹祭の開催を契機に、森林再生に向けた県民協働の取組をさらに広めます。
- 全国植樹祭に向けて、持続的な県民運動で県内の機運を高めます。
- 誰もが参加しやすい県民参加の機会を多く設定し、幅広く広報活動することで、県民全体の森林再生への関心を喚起します。
- 全国植樹祭開催後にも継続的な県民運動を推進し、かながわ森林再生50年構想の実現を目指します。



4 県産品の活用について

- 全国植樹祭の開催にあたっては、①森林の再生、②地場産業の活性化、③環境への配慮を考慮し、県産木材をはじめとして、できる限り県産品を活用することとします。

5 大会テーマ

森が育む あなたの心 森を育む あなたの手

● 作者 宗像 洋明（むなかた ひろあき）さん 横浜市



6 シンボルマーク



● 愛称

「かなりんちゃん」

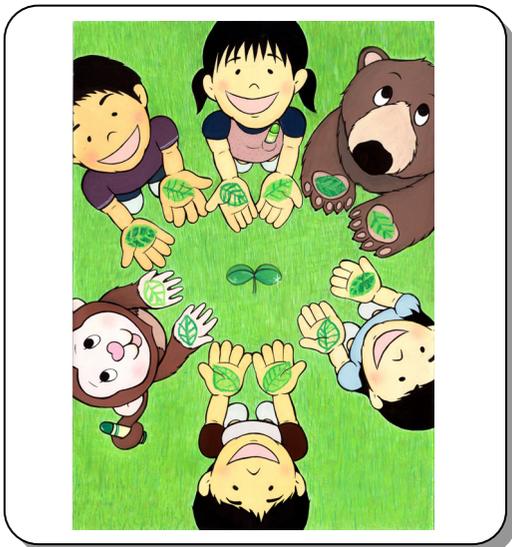
● 制作意図

樹で「ハート」を高く掲げ、手で樹を大切に植える「かなりんちゃん」の姿を通して、第61回全国植樹祭の大会テーマ「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」を表現しました。また、愛称の「かなりんちゃん」は、神奈川の（かな）と森林の（りん）をかけあわせて、愛称としました。

● 作者

大阪府
河野 通（こうの とおる）さん

7 大会ポスター原画



● 画題

「温かい緑」

● 制作意図

テーマの「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」を表現するため、みんなが笑顔で、手の平に描いた葉の模様を見せ合っている所を表現しました。

みんなの手でハート形がつけられていることで心を表しました。

● 作者

神奈川県立小田原城北工業高等学校 3年
井上 美紀（いのうえ みき）さん

8 開催時期

平成22年春季

9 主催

社団法人 国土緑化推進機構

神奈川県

10 開催規模

- お手植え行事及び式典行事の参加者数は、合計で8,000人程度とします。
- サテライト会場を設け、計145,000人程度の来場を得て、総計で150,000人以上の規模とします。
- 森林ボランティア、子ども、高齢者、障害者などを含む、多くの県民が参加できるよう配慮します。

参加区分	参加予定人数	備 考
両会場招待者	30人	国務大臣、県議会議長、次期開催県知事、開催会場市長等
県外招待者	1,470人	国関係者、被表彰者、他県参加者等
県内招待者	4,000人	県議会議員、市町村関係者、緑化関係団体、公募参加者、県実行委員会委員等
スタッフ	2,500人	実施本部員、協力員、出演者・出展者等
小 計	8,000人	
サテライト会場参加者	145,000人	来場者
総 計	150,000人以上	

11 開催会場

■お手植え・植樹会場

会場設置市：南足柄市

南足柄市足柄森林公園丸太の森地区（南足柄市広町）

■式典・植樹会場

会場設置市：秦野市

県立秦野戸川公園地区（秦野市堀山下・戸川・横野）

■サテライト会場(会場設置市町)

横浜市、川崎市、横須賀市、藤沢市、小田原市、相模原市、厚木市、伊勢原市、海老名市、葉山町、山北町、開成町、湯河原町

■荒天会場

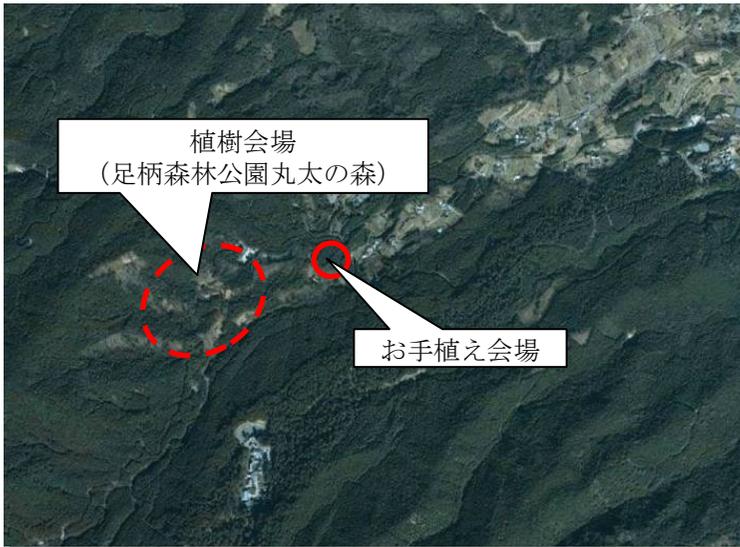
秦野市総合体育館

(2) 足柄森林公園丸太の森地区

■お手植え会場

箱根外輪山の北東に位置し、南足柄市足柄森林公園丸太の森、県立足柄ふれあいの村に隣接する森林地域にあります。

お手植え会場の周辺施設は、子どもたちを始めとした多くの人々が訪れ、森林学習の拠点となっています。



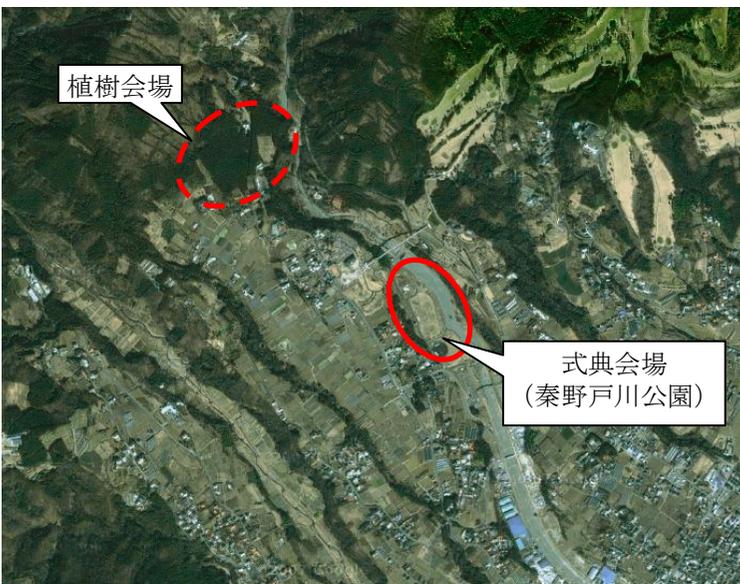
足柄森林公園丸太の森

(3) 秦野戸川公園地区

■式典会場

会場となる県立秦野戸川公園は、丹沢山地の南に位置し、丹沢の山々から流れる水無川の自然を生かした都市公園です。

丹沢山地への登山口として知られるこの地域は、多くの登山者や観光客が訪れ1年中にぎわっています。



秦野戸川公園

(4) 各地区植樹会場

■植樹会場

植樹会場は、お手植え会場、式典会場の隣接地で、それぞれから徒歩で移動可能な距離にあります。

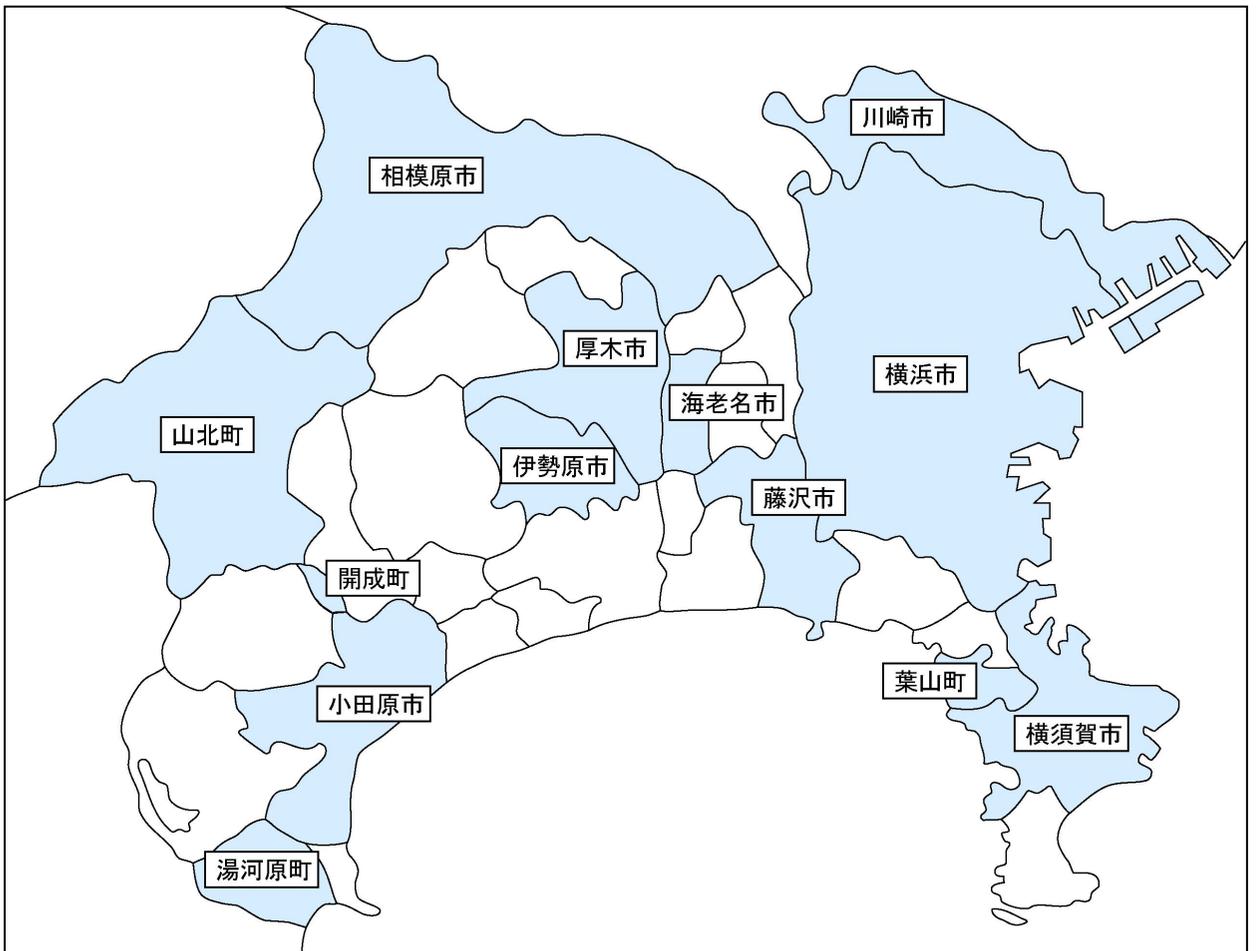
両会場ともスギ・ヒノキの人工林を「かながわ森林再生50年構想」の目指す森林再生の見本林になるよう多様な森づくりを行います。

全国植樹祭開催後は、県民と協働して取り組む森林再生を象徴する県民運動の場として活用していきます。

(5) サテライト会場

■会場設置市町

横浜市、川崎市、横須賀市、藤沢市、小田原市、相模原市、厚木市、伊勢原市、海老名市、葉山町、山北町、開成町、湯河原町



1 基本的な考え方

- 県民との協働による森林再生などを強くアピールし、参加者の心に残る内容になるよう、開催意義や開催理念を全国へ発信します。
- 式典は、簡素化を図りながらも、にぎわいがある中で、厳粛で品格があるものとします。
- 森林ボランティア、子ども、高齢者、障害者等を含む、多くの県民が、参加できるよう配慮します。
- 式典の運営は、来場者の安全性、快適性に十分配慮し、NPOや森林ボランティア、緑の少年団等の協力を得ながら、おもてなしの心を持って行います。
- 司会者、式典進行介添え役、音楽隊、アトラクション等の出演者については、地元団体をはじめとする県内関係団体等の積極的な協力と参加を得て編成します。

■ 演出展開のイメージ

本県の森林づくりへの取組をしっかりと発信し、意義深い式典とします。

神奈川県民全員参加を目指して

大会テーマ：**森が育む あなたの心 森を育む あなたの手**

県内全域をステージ

お手植え・
植樹会場

連携

式典・
植樹会場

県民協働による
森林づくりへの取組
(神奈川県力)

発信

前進

“未来につなぐ森づくり”
かながわ森林再生50年構想の実現

2 演出概要

お手植え行事、式典行事の演出は、プロローグ、お手植え・式典、エピローグの3部構成とします。

■お手植え会場（足柄森林公園丸太の森地区）

箱根外輪山の森林の中で、しずかなたたずまいを見せるお手植え会場は、穏やかで、厳かな雰囲気を持っています。

お手植え会場では、この雰囲気を活かした演出を行います。

区分	演出テーマ	内容
プロローグ	ようこそ やさしさあふれる 神奈川の森へ	○参加者を歓迎する気持ちを表現します。
お手植え	はじめよう 心をこめた森づくり	○天皇皇后両陛下のお手植え、代表者記念植樹等を行います。
エピローグ	神奈川の魅力を あなたに発信	○地元団体をはじめとする多くの人に参加するアトラクション、神奈川の豊かな自然（森～川～海）や、文化、森林、林業、木材産業の紹介などを行います。

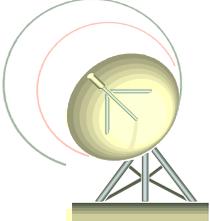
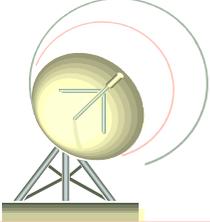
■式典会場（秦野戸川公園地区）

多くの登山者や観光客に親しまれている丹沢山地の玄関口である式典会場は、丹沢の山々からの水が川となって流れ、山並みを背景に優れた景観を有する、雄大で、力強い雰囲気を持っています。

式典会場では、この雰囲気を活かした演出を行います。

区分	演出テーマ	内容
プロローグ	ようこそ 都市と融和する 神奈川の森へ	○参加者を歓迎する気持ちを表現します。
式典	森が育む あなたの心 森を育む あなたの手	○天皇皇后両陛下のお手播き、国土緑化功労者等の各種表彰、大会宣言、次期開催県へのリレーセレモニー等を行います。 ○大会テーマ「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」を、メッセージとしてわかりやすく伝えるよう、演出・表現し、「かながわ森林再生50年構想」を全国に発信します。
エピローグ	未来へ向かって響け あなたと森の ハーモニー	○地元団体をはじめとする多くの人に参加する、一体感のある盛り上がり演出し、参加者を歓送します。

3 式典進行スケジュール

お手植え・植樹会場 (足柄森林公園丸太の森地区)		式典・植樹会場 (秦野戸川公園地区)		
時間	プログラム・内容	時間	プログラム・内容	
9:00	招待者入場 サービス広場の運営			
		9:20	招待者入場 サービス広場の運営	
9:50	プロローグ 歓迎アトラクション お手植え行事の案内	9:50		
			 お手植え会場から映像中継	
10:25	お手植え 天皇皇后両陛下 御着 お手植え苗木の贈呈 天皇皇后両陛下 お手植え 代表者記念植樹 天皇皇后両陛下 御発			
10:50	エピローグ アトラクション			
11:15 2会場連携セレモニー(双方向中継)				
11:20		11:20	プロローグ 歓迎アトラクション 式典行事の案内	
			 式典会場から映像中継	
		11:45		式典 天皇皇后両陛下 御着 開会のことば 三旗掲揚・国歌斉唱 主催者あいさつ 表彰 天皇皇后両陛下 お手播き アトラクション 大会宣言 リレーセレモニー 閉会のことば 天皇皇后両陛下 御発
		12:26		エピローグ アトラクション
13:10	招待者退場	13:10	招待者退場	

1 基本的な考え方

- 植樹行事の実施にあたっては、「かながわ森林再生50年構想」に示した森づくりの方向と、植樹会場の地域特性を考慮し、「広葉樹林の再生」、「人工林から混交林への転換」及び「人工林の再生」を目指した森づくりを行います。
- 県民との協働による森林づくり活動の拡大につなげていく契機とするため、苗木の育成や植樹行事への協力などに、多くの県民が参加できるようにします。
- また、植樹祭当日の参加人数は制約されることから、プレ全国植樹祭やサテライト会場などで植樹行事を企画することとします。
- 植樹行事に使用する樹種は、本県の自然条件にあった在来のもので県民に親しみのあるものなどを選定しました。
- 植樹行事には、県内で種子等を採取して育成した苗木を用いることとし、優良苗木の育成に取り組んでいる生産者のものをはじめ、障害者福祉施設で養成したもの、「苗木のホームステイ」により子どもたちが育てたものも使用します。

※P52を参照

【参考：かながわ森林再生50年構想の概要】



※詳しくは59ページ「かながわ森林再生50年構想」をご覧ください。

2 お手植え計画

- 天皇皇后両陛下のお手植えは、足柄森林公園丸太の森地区のお手植え会場で、「森」の字をかたどり、それぞれ3本の植樹とします。
- お手植えされた樹木は、森づくりに対する県民運動のシンボルとして大切に管理、育成していきます。

■天皇陛下お手植え樹種（3種）

樹種名	特徴・選定理由等
① ケヤキ	<p>県内の自然林を代表する落葉広葉樹 自然林再生の代表樹種</p> <p>丹沢、箱根の自然林をはじめ、県内に広く自生する落葉広葉樹で、扇状に枝を張り、円形に広がる樹形が美しく、また、剪定によく耐えることなどから、公園樹、街路樹などにも用いられる 材は木目が美しく、狂いが少なく、湿気にも強いことから、社寺建築、家具、漆器など広い用途に用いられる</p> 
② スギ（無花粉）	<p>木材資源を循環利用し、林業を再生するシンボル 花粉発生源対策のシンボル</p> <p>県内の精英樹（形質、性質が優れた樹木）の家系から、本県の研究により、平成16年に県内で初めて見出された、花粉を出さないスギで、花粉の発生を抑制しながら伐る・植える・育てるを繰り返して森林の循環的・持続的な活用を図ることができ、林業を再生するうえで大きな期待がよせられており、苗木を量産化するための試験が進められている</p> 
③ クヌギ	<p>「ドングリ」の木として親しまれている落葉広葉樹 里山林再生の代表樹種</p> <p>人里周辺のかつて薪炭林として利用された里山などにみられる落葉広葉樹で、夏には樹液にカブトムシやクワガタが集まり、秋には直径約2cmの大きなドングリをつけ、季節ごとに子どもたちが森林に親しむきっかけを演出する 切株から萌芽（ひこばえ）するが、老木になるにつれ、その能力は失われる</p> 

■皇后陛下お手植え樹種（3種）

樹種名	特徴・選定理由等
① ヤマザクラ	<p>県内に広く自生する落葉広葉樹で、春の花が美しい 里山林再生の代表樹種</p> <p>丹沢山地の上部を除き、山地部から市街地近郊の樹林地まで県内に広く自生する、野生の桜の代表的な樹種で、4月上旬から中旬には白又は淡紅白色の花と紅色の若葉を同時につけ、また、秋には鮮やかに紅葉し、古くから人々に親しまれ、詩歌や小説などにも数多く登場する桜は、菊と並び日本の国花とされている</p> 
② イロハモミジ	<p>県内に広く自生する落葉広葉樹で、紅葉が美しい 溪畔林再生の代表樹種</p> <p>溪流沿いの適湿地をはじめ、県内の山地部や丘陵部に広く自生する、紅葉する野生のモミジの代表的な樹種で、秋、黄色を経て赤紅濃色に至る紅葉が鮮やかであり、鑑賞樹として公園樹、庭木、盆栽などにも用いられている</p> 
③ シラカシ	<p>県内に広く自生する、在来の植生を代表する常緑広葉樹</p> <p>丹沢、箱根山地の上部を除き、県内に広く自生する常緑広葉樹で、剪定によく耐え、枝葉がうっそうと茂り、夏の強い日差しや強風を遮ることから、公園樹、街路樹、生垣などにも利用され、県民に広く親しまれている シラカシの名は、材が白いことに由来する</p> 

3 お手播き計画

- 天皇皇后両陛下のお手播きは、秦野戸川公園地区の式典会場で、お手播き箱へ、それぞれ2種類の播種とします。
- お手播きされた種子は、県が管理・育成して苗木に仕立て、県内の公共施設などに記念樹として配布するほか、森林再生のための植樹活動などに活用します。

■天皇陛下お手播き樹種（2種）

樹種名	特徴・選定理由等
① ブナ	<p>丹沢の自然林を代表する落葉広葉樹 丹沢再生のシンボル</p> <p>丹沢、箱根、小仏山地の上部（およそ標高800m以上）に自生し、林冠を優占して安定した森林を形成する、県内の冷温帯の自然林を象徴する落葉広葉樹である 種子は食用となり、数年に1度広範囲で同時に豊作になる 県内のブナは、日本海側のブナと比べると葉が小さく、コハブナとも呼ばれる</p> 
② スダシイ	<p>県内の在来植生を代表する常緑広葉樹</p> <p>丹沢、箱根、小仏山地を除く県内各地に自生し、樹齢数百年を越える大木も見られる常緑広葉樹で、公園樹などにも利用される 堅果はシイの実と呼ばれ、アクがなく食べられるが、その成熟には1年以上の期間を要し、開花の翌年の秋に結実する</p> 

■皇后陛下お手播き樹種（2種）

樹種名	特徴・選定理由等
① コブシ	<p>県内に自生する落葉広葉樹で、早春の白い花が美しい 里山林再生の代表樹種</p> <p>県内の山地部や丘陵部に広く自生する落葉広葉樹で、4月には葉を開く前に直径6cmから10cmの芳香のある白色の花をつけて春の訪れを感じさせ、秋にはコブシ状の果実から赤色の種子を白い糸で吊り下げて目を楽しませてくれる</p> 
② ヤブツバキ	<p>県内に自生する赤い花が美しい常緑広葉樹 県内の在来植生を代表する樹種</p> <p>シイ類やカシ類と共に県内に広く自生し、暖温帯の自然林を象徴する常緑広葉樹で、12月から3月にかけて直径5cmほどの赤い花をつけ、筒状になった黄色い雄しべの奥の蜜を吸いにメジロなどが訪れる 鑑賞樹として公園樹、庭木、盆栽などに利用されるほか、種子からは椿油が採れる</p> 

4 代表者記念植樹計画

- 代表者記念植樹は、足柄森林公園丸太の森地区で、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に、代表者それぞれが1本の植樹を行います。
- 代表者記念植樹に用いる樹種は、天皇皇后両陛下のお手植えと同じものとします。

■代表者記念植樹樹種（6種）

樹種名	特徴・選定理由等
ケヤキ、スギ（無花粉）、クヌギ ヤマザクラ、イロハモミジ、シラカシ	（お手植え樹種の特徴・選定理由等と同じ）

5 参加者記念植樹計画

- 参加者記念植樹は、足柄森林公園丸太の森地区及び秦野戸川公園地区それぞれに設けられた植樹会場で、一人1本以上を植樹します。
- 記念植樹による森づくりは、「広葉樹林の再生」、「人工林から混交林への転換」及び「人工林の再生」を目指すものとし、未来の森の姿をイメージしながら植樹します。

■森づくりの方向と未来の森の姿

森づくりの方向	未来の森の姿
広葉樹林の再生	「森の恵み豊かな落葉広葉樹林」 クヌギ、コナラを主体とする里山の落葉広葉樹林
	「四季を通じてうっそうと茂る照葉樹林」 本県の低標高域の在来の樹種で構成される照葉樹林
人工林から混交林への転換	「多様な生き物が生息する針葉樹が混生する広葉樹林」 針葉樹と広葉樹が混生し、多様な樹種や階層からなる森林
人工林の再生	「森林循環を取り戻した持続可能な人工林」 伐る・植える・育てるを繰返し、循環的・持続的に活用する森林 少花粉・無花粉の品種が導入され、花粉の発生が抑制される森林

- 植樹場所は、スギ・ヒノキの人工林内に小面積の伐採を行って植樹エリアを設けます。各エリアに、自然条件や周辺環境の状況などに応じた未来の森の姿を設定して、その姿にふさわしい樹種を植栽します。

■参加者記念植樹樹種

足柄森林公園丸太の森地区（20種）	秦野戸川公園地区（22種）
アオダモ、アオハダ、アカガシ、 イタヤカエデ、イロハモミジ、キハダ、 クヌギ、クマシデ、ケヤキ、コブシ、コナラ、 シラカシ、スタジイ、タブノキ、ホオノキ、 モミ、ヤブツバキ、ヤブデマリ、ヤマザクラ、 ヤマボウシ	アオダモ、アオハダ、アカガシ、アラカシ、 イタヤカエデ、イロハモミジ、キハダ、 クヌギ、クマシデ、ケヤキ、コブシ、コナラ、 シラカシ、スギ（無花粉）、タブノキ、 ヒノキ（少花粉）、ホオノキ、モミ、 ヤブツバキ、ヤブデマリ、ヤマザクラ、 ヤマボウシ

1 基本的な考え方

会場の設営にあたっては、安全性・快適性、機能性、経済性に留意し計画します。



安全性
快適性

招待者・関係者などすべての人々が安全で快適に過ごせる会場を整備します。



機能性

行事が円滑に運営される快適な施設と動線を整備します。



経済性

既存施設を有効活用し、リユース可能な製品を多用した経済的で環境に配慮した会場を整備します。

2 施設配置図・イメージ図

(1) お手植え会場（南足柄市）

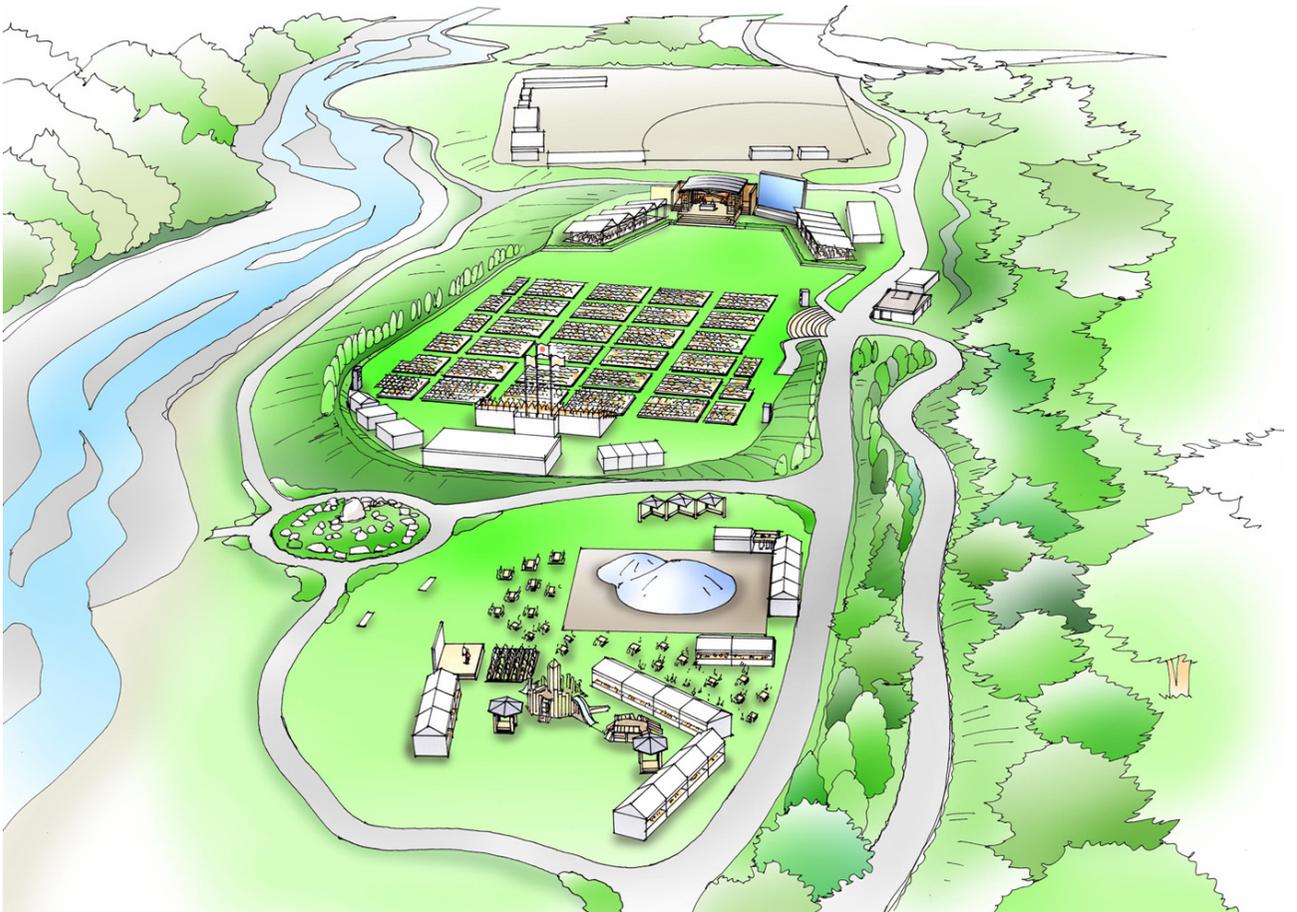
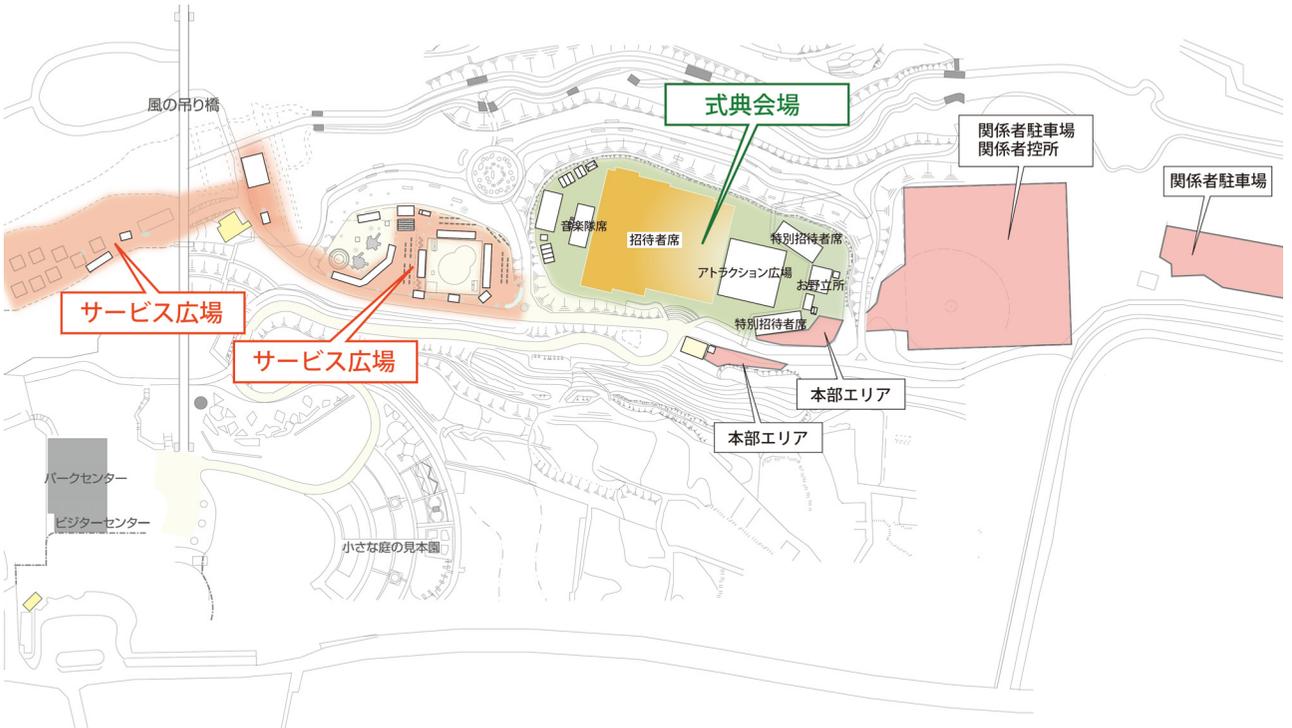
お手植え会場は、箱根外輪山の北東に位置する森林地域にあり、約1,000人の招待者を収容できる施設を整備します。



お手植え会場イメージ図

(2) 式典会場（秦野市）

式典会場は、丹沢山地の南に位置し、丹沢の山々から流れる水無川の自然を生かした都市公園で、約4,500人の招待者を収容できる施設を整備します。



式典会場イメージ図

3 主要施設計画

(1) お野立所

- お野立所は、県産木材を使って神奈川の地で培われてきた、職人やエンジニアたちのものづくり技術をシンボライズした形態・表現を目指します。
- 建物の造り方については、環境に配慮し、構造部材は木材・金物・仕上材料を含め極力工場で加工した部材を現場に搬入し、機械的に組み立てを行い、現場での廃棄物発生抑制に努めます。
- お野立所の後方には「丹沢六木」と呼ばれるツガ、ケヤキ、モミ、スギ、カヤ、クリの六種類の木材を利用して屏風をつくり、ここでも神奈川らしさを表現します。

①お手植え会場（南足柄市）

かずさがわ

うっそうとしたスギ林や袂を穏やかに流れる上総川と、その東側に広がる田んぼや集落が残る風景は、昔ながらののどかな里山を思わせます。この様な原風景に寄り添うような山小屋をイメージした勾配屋根を採用します。



【お手植え会場 お野立所イメージ】

②式典会場（秦野市）

水無川を中心とした都市公園としてのおおらかな環境を意識し、この地域のシンボルともなっている風の吊り橋からヒントを得て、風にはらんだ帆や浮遊するパラグライダーをイメージしたアーチ形状の屋根を採用します。



【式典会場 お野立所イメージ】

※お野立所

天皇皇后両陛下の観覧のお席となる、全国植樹祭のシンボリックな施設です。

(2) 仮設工作物

特別招待者席や音楽隊席などの仮設工作物は、安全性に十分配慮するとともに、レンタル品を使用し経済的で環境に配慮したものとします。

(3) 木製品

ベンチ、プランター等の木製品には、間伐材や会場の森林整備等で生じた伐採木などの県産木材を活用します。

4 サイン計画

- 招待者が安全かつスムーズに植樹行事やお手植え行事、式典行事に参加することができ、各施設等への移動に支障がないよう、各所に案内サインを設置します。
- サインの設置にあたっては、ユニバーサルデザインに留意し、招待者が見やすい色彩、大きさのサインにするとともに、見やすい位置、高さに設置します。また、ピクトサイン（絵文字）を使用する等、招待者が一目で分かるようなサインの設置に努めます。
- サインの材料には、県産木材を使用するほか、リユース可能な製品の活用等、環境に配慮した資材の使用に努めます。

設置区域	サイン種別	内 容
会場全体	施設表示	各エリア、施設等の名称を表示
	誘導	招待者を各エリア、施設等に誘導するサインを動線上に設置
	注意事項等	手荷物検査や持込禁止物に関する注意事項等を表示
植樹会場	植樹地誘導	植樹会場内の主要動線上に、招待者を植樹地に誘導するサインを設置
	植樹位置	招待者の植樹位置等の表示
お手植え会場 式典会場	会場案内図	会場内の全体図及び現在地の表示
	座席表示	招待者の座席位置等の表示
輸送バス	バス号車	添乗員が招待者を誘導する際、バス号車等を表示したプラカードを使用

■ピクトサイン参考例



5 電気・給排水・通信設備計画

■お手植え会場・式典会場

①電気設備計画

会場内で使用する電源は仮設電源（ジェネレーター等）で対応します。

②給排水計画

水は外部から給水し、排水は回収して外部にて適正に処理します。

③仮設トイレ

植樹会場、サービス広場などに適正な数量を設置します。また、衛生面にも十分配慮します。

④通信設備計画

運営を円滑に行うため、会場の実施本部等に臨時電話を設置するほか、携帯電話、トランシーバーなどの無線通信機器を適正に配置します。



6 飾花計画

- 会場周辺の飾花は、地元産の花を使用し、会場の雰囲気を引き立てるとともに、招待者の安全かつ円滑な動線が確保できるよう配置します。
- お手植え会場及び式典会場内に設置する飾花プランターについては、会場整備等で生じた伐採木を活用したものを配置します。
- また、お手植え会場及び式典会場に接続する沿道等については、県及び会場市の秦野市・南足柄市など関係者が一体となって、美化に努めます。

■飾花箇所及び内容

設置箇所	概要
お手植え会場・式典会場	各エリアや動線等の区分を行うとともに、会場の雰囲気を引き立てるよう、プランター等を配置します。
お手植え会場・式典会場と植樹会場への連絡道	招待者の安全で円滑な誘導ができるよう、プランターを配置します。
各会場に接続する沿道等	県及びに会場市の秦野市・南足柄市など、関係者が一体となって飾花を行います。

■会場の飾花例



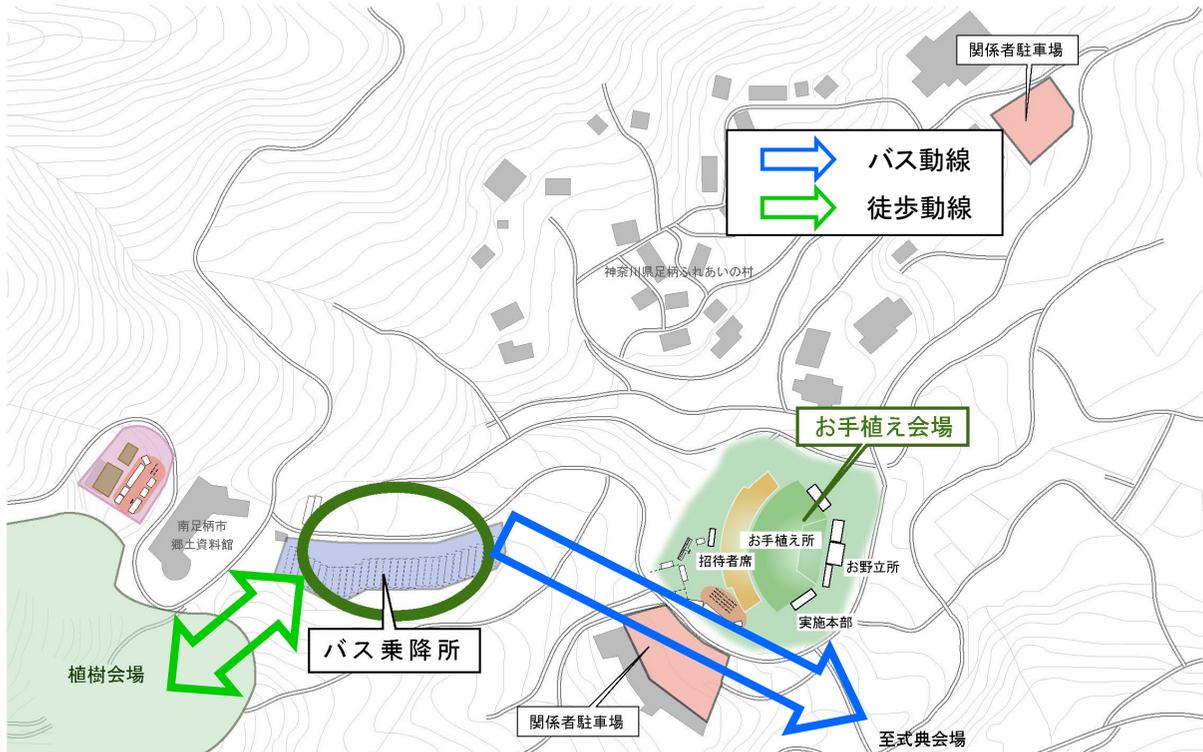
■連絡道の飾花例



7 会場内動線計画

(1) お手植え会場動線図（式典会場への移動者）

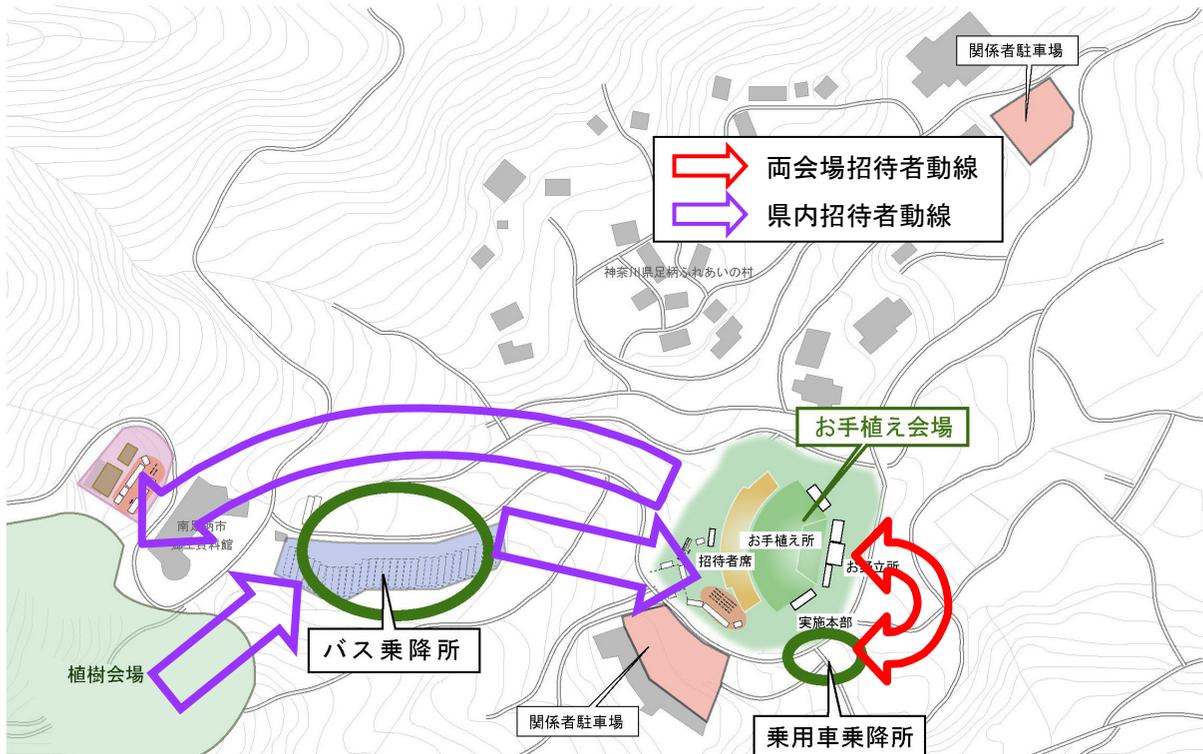
バスで来場し、植樹後、バスで式典会場へ移動



(2) お手植え会場動線図（お手植え会場への入場者）

①両会場招待者：乗用車等で来場し、お手植え会場へ移動

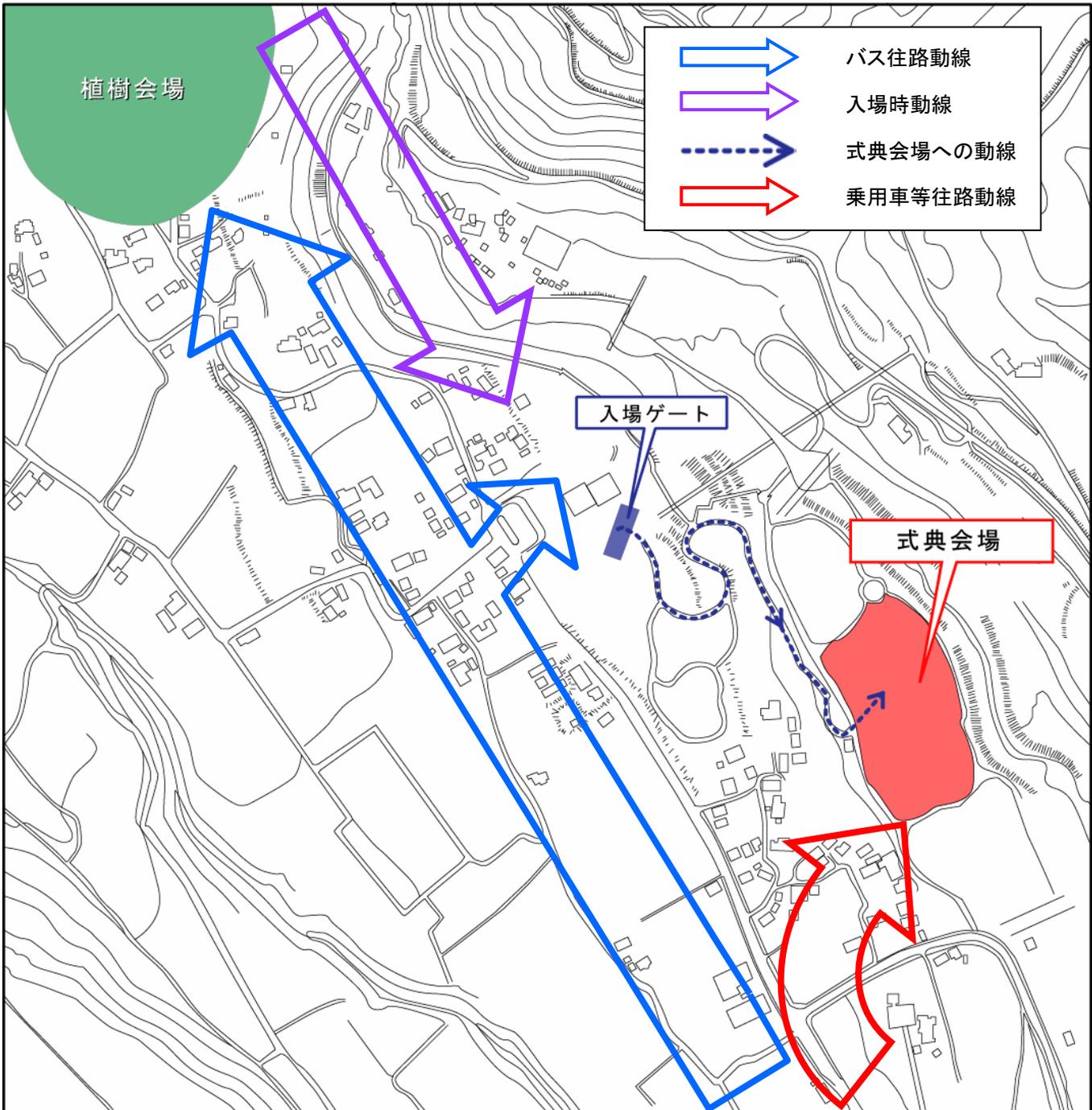
②県内招待者：バスで来場し、お手植え行事参加後、徒歩で植樹会場へ移動



※招待者動線の詳細については今後調整の上、決定します。

(3) 式典会場動線図（会場到着時）

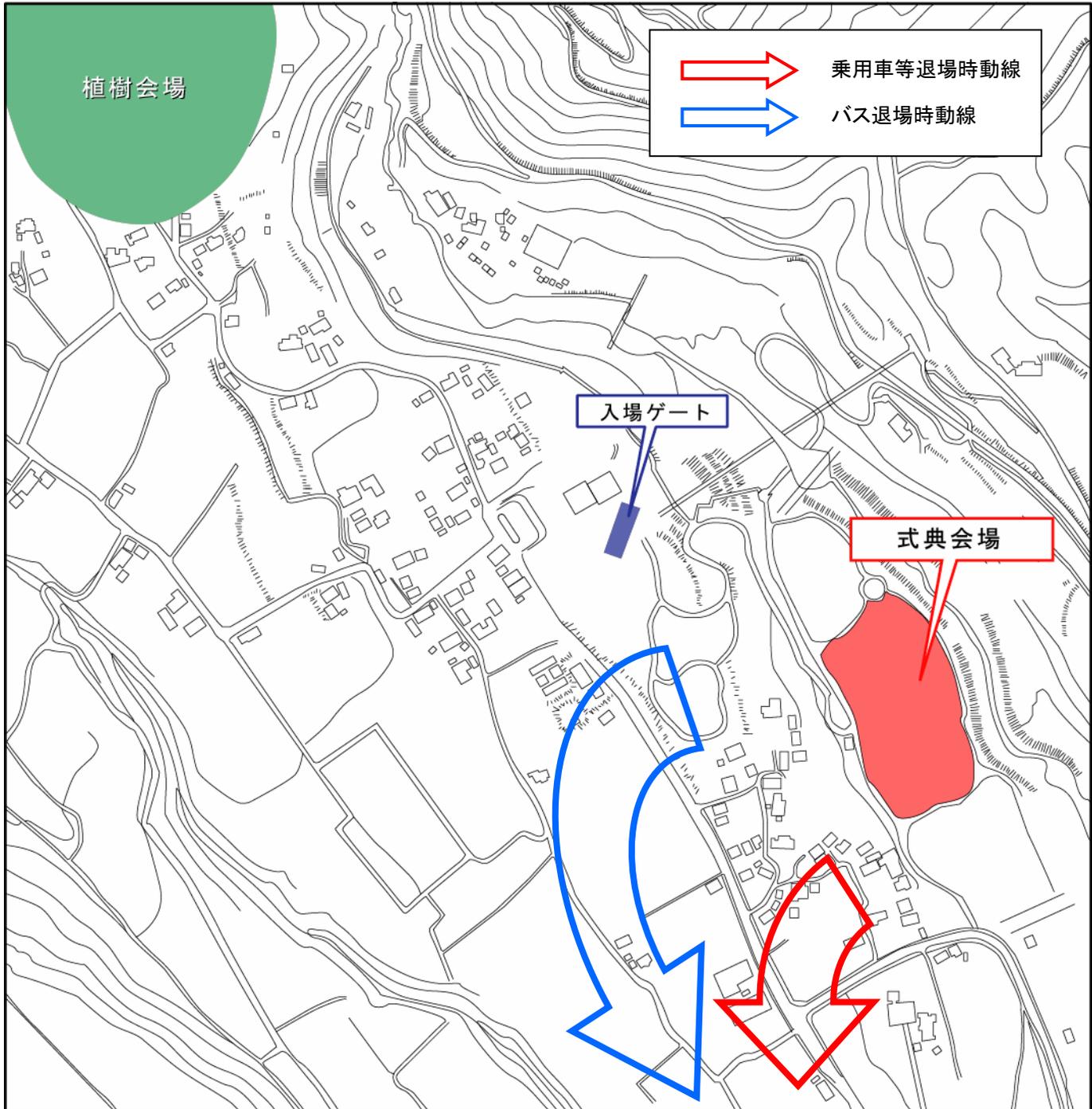
①両会場招待者	乗用車等で来場し、直接式典会場へ移動
②県内招待者（お手植え会場より）	バスで来場し、直接式典会場へ移動
③県外招待者	バスで来場し、植樹後、徒歩で式典会場へ移動
④県内招待者	



※招待者動線の詳細については今後調整の上、決定します。

(4) 式典会場動線図（会場出発時）

①両会場招待者	式典会場より徒歩で乗用車等へ向かい会場を出発
②県内招待者（お手植え会場より）	徒歩でバスに向かい会場を出発
③県外招待者	
④県内招待者	



※招待者動線の詳細については今後調整の上、決定します。

8 サービス広場計画

- お手植え行事、式典行事の前後に招待者が快適に過ごせるよう、総合案内所や湯茶接待所、仮設トイレ等からなるサービス広場をお手植え会場、式典会場等に設置します。
- 本県の森づくり活動や観光、文化、県産品等を招待者に広くPRするため、各種展示コーナーや販売コーナー、イベントステージ等を関係団体の協力により設置、運営します。
- サービス広場の運営にあたっては、出展（店）者等との協力により廃棄物の減量化に取り組むとともに、飲食物の提供において環境に配慮した容器を使用する等、環境にやさしい運営に努めます。

施設名	内 容
総合案内所	招待者に対する各種案内、情報提供、遺失・拾得物の管理、各種問い合わせ等への対応
イベントステージ	郷土芸能の上演等、各種イベントを実施
湯茶接待所	招待者に湯茶、ミネラルウォーター等を提供
販売コーナー	県の特産品や飲食物等を販売
展示コーナー	県の森林・林業、観光、県民運動等について展示紹介
臨時郵便局	記念切手の販売と郵便、宅配サービス

※イベントステージは、式典会場にのみ設置

■販売コーナーの例



■イベントステージの例



1 基本的な考え方

- 全国からの招待者をもてなしの心でお迎えし、神奈川県大会の開催意義や理念を伝える場とします。
- 全国植樹祭の運営には、市町村、林業関係団体、NPOやボランティア団体等の協力が必要不可欠であることから、実施については各団体の意向を踏まえ、密接な連携を図ります。
- 招待者が安全、快適、清潔に過ごせるよう会場運営を行います。

2 招待計画

(1) 参加区分

- 招待者は「両会場招待者」、「県外招待者」、「県内招待者」に区分します。
- 多くの県民が参加できるように、「県内招待者」の一部は公募による招待とするほか、県内各地にサテライト会場を設けます。
- 「両会場招待者」は、お手植え行事、式典行事の際、特別招待者席に着席します。
- 「県外招待者」、「県内招待者」の一部は式典行事の際、特別招待者席に着席します。

参加区分	予定人数	備 考
両会場招待者	30人	国務大臣、林野庁長官、県議会議長、次期開催県知事、開催会場市長等
県外招待者	1,470人	中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者、都道府県知事及び議会議長、各都道府県森林、林業関係者等
県内招待者	4,000人	県選出国會議員、県議會議員、市町村長、緑化功労者、実行委員会委員、県内の森林・林業関係者等 県内公募による一般県民（約2,000人）
小 計	5,500人	
スタッフ	2,500人	
合 計	8,000人	

(2) 植樹・式典会場別による参加区分

参加区分	人数	植樹会場	式典等会場	移動手段
両会場招待者	30人	-	丸太の森→秦野戸川公園	乗用車等
県外招待者	1,470人	秦野戸川公園	秦野戸川公園	バス
県内招待者	2,000人	秦野戸川公園	秦野戸川公園	バス
	1,000人	丸太の森	秦野戸川公園	バス
	1,000人	丸太の森	丸太の森	バス
合 計	5,500人			

3 参加者行動計画

時刻	全体進行		招待者別行動計画					
	丸太の森	戸川公園	両陛下	両会場招待者 30人	県外招待者 1,470人	県内招待者		
						県内招待者1 2,000人	県内招待者2 1,000人	県内招待者3 1,000人
5:00								
6:00							指定集合地	
7:00					指定集合地	指定集合地	バス降場	
8:00	記念植樹	記念植樹		お手植え会場到着	植樹会場 (秦野戸川公園地区)	植樹会場 (秦野戸川公園地区)	記念植樹 (丸太の森地区)	バス降場
9:00				受付	入場チェック (式典会場) 8:00~10:20		式典会場到着	入場チェック (お手植え会場)
10:00	プロローグ	お手植え行事 (中継)	御着	特別招待者席 (お手植え会場)	着席 ~10:25 会場内でお手植え行事中継を視聴			一般招待者席 (お手植え会場)
10:25	お手植え行事		お手植え行事					
10:50	エピローグ		御発					
11:00	2会場連携セレモニー (双方向中継)			離席 11:00~	再着席 11:15まで			
11:45	式典行事 (中継)	プロローグ	御着	特別招待者席 (式典会場)	一般招待者席 (式典会場)			植樹会場 (丸太の森地区) で植樹
12:00	式典行事	式典行事	式典行事					〔式典映像を放映〕
12:26	式典行事 (中継)	式典行事	御発					
13:00	式典行事	エピローグ	行幸啓へ					昼食 (会場内)
14:00	記念植樹			昼食 (昼食場)	昼食 (原則、会場内)			植樹会場 (丸太の森地区)
					バス乗り場			
				解散地	解散地・視察等	指定解散地	指定解散地	指定解散地

※詳細については、今後調整の上、決定します。

4 受付計画

(1) 招待者受付

- 前日に宿泊する招待者は、宿舎到着時に受付を行い、当日バス乗車時にチェックを行います。
- 宿泊しない招待者は、当日バス乗車時に受付を行います。

①前日受付

宿泊する両会場招待者、県外招待者、県内招待者については前日宿舎にて1回目の受付を行います。

区分	受付場所	受付時間	受付内容
両会場招待者	宿舎	宿舎到着時	<ul style="list-style-type: none"> ・ルームキー配布 ・記念品・大会用品の配布 ・宿泊に関する説明 ・レセプション参加の説明
県外招待者 県内招待者 (宿泊者)		宿舎到着時	<ul style="list-style-type: none"> ・ルームキー配布 ・記念品・大会用品の配布 ・宿泊に関する説明 ・(レセプション参加者には、レセプション参加の説明)

②当日受付

全国植樹祭当日の受付は、宿舎や指定集合地で、バスに乗車する前に行います。

区分	受付時間	受付場所	受付内容
両会場招待者 (宿泊者)	会場到着時	会場受付	<ul style="list-style-type: none"> ・受付名簿確認、胸章を接伴員に渡す。
県外招待者 (宿泊者) 県内招待者 (宿泊者)	宿舎出発前	宿舎バス乗場	<ul style="list-style-type: none"> ・バス乗車時、名簿を確認する。 ・IDカードを付けるよう案内する。
県内招待者 (宿泊なし)	バス乗車時	指定集合地	<ul style="list-style-type: none"> ・バス乗車時、名簿を確認する。 ・大会用品、IDカードを渡す。

お手植え会場、式典会場の入場時は、原則として入場チェックを行います。

(2) 招待者に配布する記念品等

- 全国植樹祭の開催理念や大会テーマ、神奈川の自然や産業、観光資源、特産品等を全国に情報発信するために、記念品等を配布します。
- 記念品の選定にあたっては、県産品の活用を図り、環境に配慮したものとするとともに、遠方からの招待者の持ち帰りやすさに配慮します。
- 式典の円滑な運営のためにIDカードや帽子等を配布します。

5 特別接伴計画

(1) 両会場招待者の対応

- 両会場招待者のうち、実行委員会で特別接伴が必要と認められる招待者には実施本部員が次の対応を行います。
- 前日は、出迎えからレセプションの受付、会場内の案内、誘導、宿泊場所への案内など常時サポートします。
- 式典当日は、出迎えから受付誘導、会場内の案内、植樹誘導、見送りまで、常時サポートします。
- 移動には原則として乗用車（公用車・借り上げ車）を使用します。
- 両会場招待者の行動が常時把握できる通信連絡体制にします。

(2) レセプション計画

- 天皇皇后両陛下のご来県を歓迎するとともに、御懇談の場とします。

- 主 催 神奈川県
- 開催日時 全国植樹祭開催の前日 18:00～19:00予定
- 会 場 両陛下の宿泊施設内
- 出席者 500名程度
 - ・主催者（（社）国土緑化推進機構会長、神奈川県知事）
 - ・両会場招待者（国務大臣、次期開催県知事、開催会場市長等）
 - ・県外招待者（緑化功労者、代表表彰者等）
 - ・県内招待者（緑化功労者、県内表彰者、県選出国會議員、
県議會議員、市町村長、実行委員会委員等） 等

6 昼食計画

(1) 昼食の基本的な考え方

- 県産食材、地元特産品、特に「かながわブランド」を広く全国にPRするとともに、県内の優れた農林水産物等を使用し、「神奈川県らしい」魅力ある献立を作成します。
- また、昼食の製造、輸送、保管、配布は衛生面に万全を期するとともに、弁当などの容器・包装資材についても環境配慮するように努めます。

(2) 招待者への対応

① 昼食場所

- ・ 招待者の昼食（弁当）は、原則として、お手植え会場・式典会場内とします。

② 弁当の内容等

- ・ 県産食材をふんだんに使った、「神奈川県らしい」オリジナル弁当の献立とします。
- ・ 弁当の輸送・保管・配布は、衛生・安全面に十分配慮し、保冷車で運搬します。
- ・ 納入業者の選定は、製造能力及び運搬時間・距離等を検討して選択します。
- ・ 弁当などの容器・包装資材については、環境に十分配慮します。

(3) 出演者・ボランティア・スタッフ等

① 昼食場所

- ・ お手植え会場・式典会場内での昼食（弁当）または、業務に従事する場所での昼食とします。

② 弁当の内容等

- ・ 弁当については、招待者と同じものを配布します。

(4) その他

- 大会終了後も引き続き販売を継続できるか検討します。
- 弁当にタイトルをつけることとします。（例「かながわ春の幸弁当」等）

7 医療・衛生計画

(1) 医療救護所の設置

- お手植え会場、式典会場及び各植樹会場に救護所を設置し、傷病者の医療救護に努めます。
- 各救護所には、医療品や休憩用ベッド等を備えます。
- 消防署や近隣の医療関係機関の協力を得て、緊急の場合の搬送・受け入れ体制を整えます。

(2) 衛生対策

- 保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について、関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。
- 食の安全を期すため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供施設などの指導を徹底します。
- 飲料等の廃棄物の適切な処理を行い、各会場及びその周辺の環境美化に努めます。

8 消防・防災、警備計画

(1) 消防・防災

- 実施本部の消防・防災班が中心となり、異常の早期発見、通報に努めます。
- 会場内は、受動喫煙を防止するため、喫煙所を除きすべて禁煙とし、主要施設には消火器を設置します。
- サービス広場等の火気使用についても管理を徹底します。
- 避難については、実施本部員への周知徹底を図るとともに、参加者全員が安全に避難できる体制を整えます。

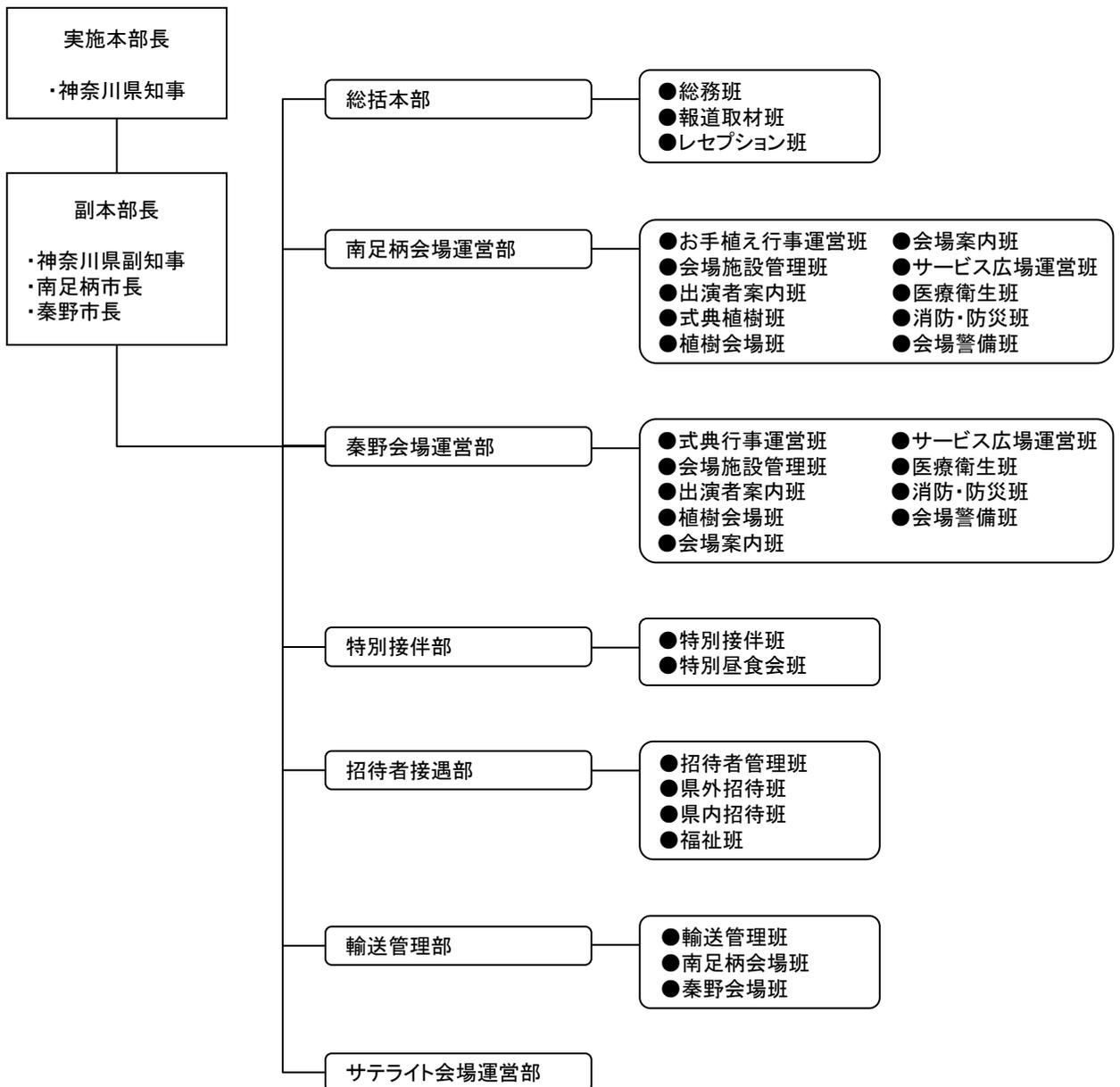
(2) 警備

- 会場内での事件・事故を防止し、全国植樹祭の円滑な運営を図るため、警察等関係機関と協力して警備を実施します。
- 当日は、警備員や実施本部員などを配置して、警備や車両の整理、参加者の誘導を行います。
- 各会場の入場ゲートでは、金属探知器による持ち物検査や入場者の確認を行います。

9 実施本部計画

- 全国植樹祭の円滑な運営のための実行組織として、「第61回全国植樹祭神奈川県実施本部（仮称）」を設置します。
- 県知事を本部長とし、県職員のほか、会場市の職員等にご協力いただき、効率的な要員配置を行います。
- 7部体制で、その下に班、係をおいて、全体で1,500人程度の組織とします。
- 関係者やボランティアなどの積極的な協力を得て、大会を運営していきます。
- 実施本部は、平成21年秋頃設置する予定です。

■実施本部組織図（案）



※実施本部組織については、効率的な運営が図れるよう今後検討を続けていきます。

10 研修リハーサル計画

- 円滑な運営に向けて、実施本部員、協力員（関係者、ボランティア等）の研修を行うほか、出演者を含めたリハーサルを実施します。
- 効果的な研修、リハーサルを実施するため、事前に、各班単位の「運営マニュアル」を作成します。
- リハーサル計画に基づき、実施本部員全員が業務内容を把握できるようにします。

(1) 実施本部員等の研修計画

- 実施本部員、協力員（関係者、ボランティア等）への研修は、事前の資料配布、現地視察、リハーサルへの参加等により実施します。

(2) リハーサル計画

区分	時期	場所	人数	参加者	内容
1 式典 リハーサル	開催5 ～8週間前	お手植え会場 式典会場	1,200人	出演者 本部員の一部 協力員の一部	式典部分
2 総合 リハーサル	開催2 ～4週間前	お手植え・植樹会場 式典・植樹会場	2,500人	出演者 本部員 協力員	式典全部、通しリハーサル、 車両・参加者誘導、出演者誘 導、非常時訓練ほか
3 前日 リハーサル	開催前日	お手植え・植樹会場 式典・植樹会場	2,500人	出演者 本部員 協力員	式典全部、通しリハーサル、 車両・参加者誘導、出演者誘 導ほか
4 荒天 リハーサル	開催5 ～8週間前	荒天会場	120人	荒天式典の出演者 本部員の一部 協力員の一部	荒天会場での式典

11 雨天時・強風時対応計画

(1) 基本方針

各リハーサル・開催当日のプログラムごとに綿密な雨天計画を策定し、役割分担の明確化と雨天体制へのスムーズな移行を行います。

(2) 式典関連

- 登壇者、介添え等の傘・レインコート等の雨具を用意するとともに雨天時の行動計画を策定します。
- 音響・映像設備・式典物品などは、あらかじめ、雨天対策を行います。
強風時は、マイクにウインドスクリーンを装着し、諸設備・機材の固定を強化します。
- プロローグ・エピローグは各出演団体と協議の上、実施もしくは中止の判断を行います。
- 式典音楽隊の演奏が不可能な場合は、事前に収録した演奏テープを使用します。
- リハーサルの雨天時に備え、代替屋内練習場を確保します。

(3) 植樹関連

- お手植え、お手播き物品はそれぞれ進行に支障のないよう、雨天対策を行います。
- 原則として晴天時と同様に植樹を行うため、足場養生等に配慮します。
- お手植え用の植樹穴の水よけを行います。
- お手播き用の柵の水よけを行います。

(4) 施設関連

- 養生用のビニールシート、床パネル、傘、清掃物品等を事前に用意します。
- 招待者やスタッフの主要な動線上にはコンパネ等を敷設し、動線を確保します。

(5) 招待者関連

- 雨天対応マニュアルを作成し、招待者の負担を軽減する体制を整えます。
- 会場警備上、傘の持ち込みができないので、レインコートを事前に全ての招待者に配布します。
- 履きなれたすべりにくい靴での参加を事前に案内します。
- 県内招待者の昼食場所は会場からバス車中に変更します。

1 基本的な考え方

- 宿泊施設の収容人員、宿泊料金、道路交通事情、送迎体制、式典終了後の視察ルート等を総合的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整えます。
- また、安全で円滑な輸送を図るため、運行ルート、輸送スケジュール及び交通規制などについては、関係者で綿密な検討を行うとともに、バス添乗員の配置・案内等により招待者が快適に移動できる体制を整えます。
- また、環境への配慮やバリアフリーにも配慮した体制とします。
- 県外招待者に対して、式典終了後の視察コースを設定し、神奈川県が森林・林業や木材産業に対する理解を深めていただくとともに、神奈川県が魅力をアピールします。

2 宿泊計画

招待者の宿泊施設は、交通の利便性や快適性等を考慮して、実行委員会が指定します。

(1) 宿泊の施設の選定について

- 宿泊施設は、接客サービス、館内施設の充実している旅館、ホテルから選定します。
- 宿泊料金は招待者負担とし、宿泊施設のランク、部屋利用形態ごとに統一料金を設定します。
- 食事メニューに関しては「神奈川の地元食材」を積極的に使用するよう、旅館・ホテルと打合せを行い、工夫します。
- 各都道府県の宿泊人数に応じた夕食会場を確保できる施設とします。
- 出発時間に対応した朝食時間を設定できる施設とします。
- グリーン購入やCO2削減、ゼロエミッションなどに積極的な宿泊施設を優先手配し、神奈川県が環境に対する取組みを発信していきます。

(2) 宿泊候補地

- 式典運営等の時間設定、道路の車両運行、休憩所の配置などを考慮し、お手植え会場及び式典会場から概ね90分以内のエリアで、県外招待者がまとまって収容できる施設を有する候補地として箱根・小田原エリアを中心に選定します。

■ 宿泊施設エリア図



3 輸送計画

- 招待者の輸送は、バス・鉄道を基本とした計画を作成し、安全・快適・円滑に実施します。
- 必要な輸送機関の確保は、県内のバス会社・タクシー会社の協力を得て手配します。

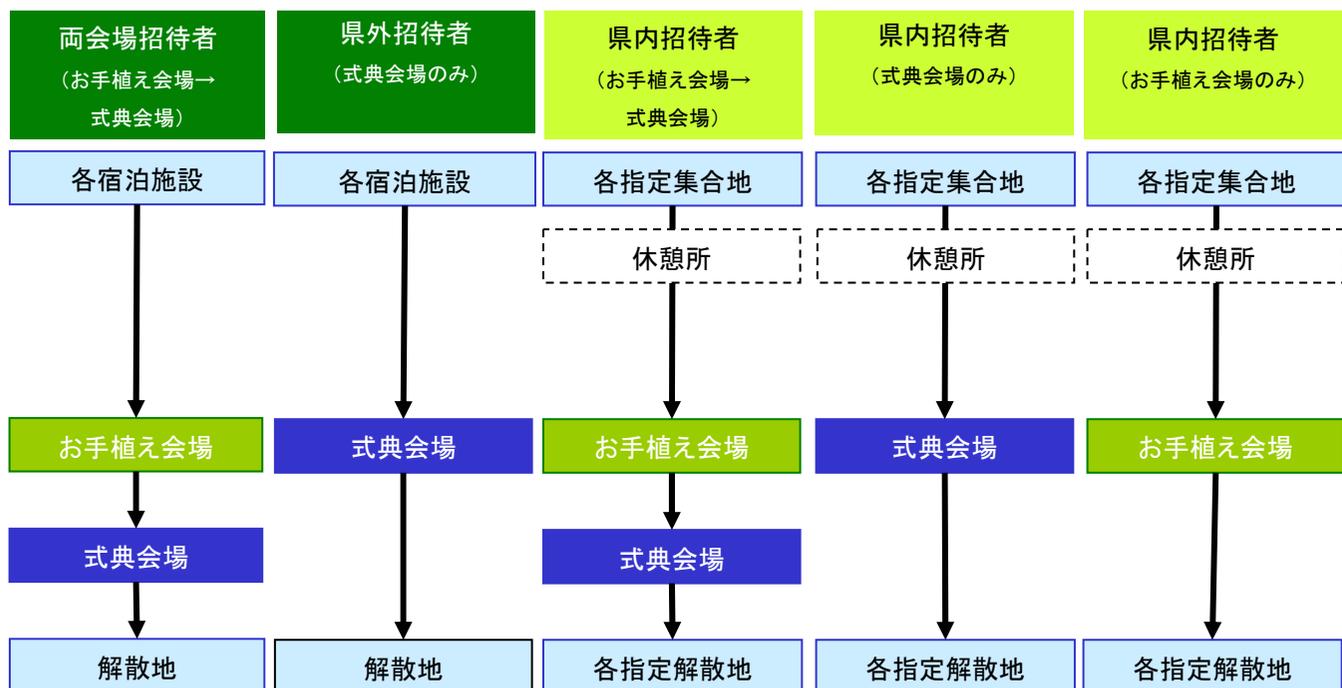
(1) 参加者ごとの輸送方針

- 両会場招待者については、随行者を含め乗用車での輸送を基本とし、実施本部員を配し、出迎え、見送り、車両添乗、誘導等業務を行います。
- 両会場招待者以外の参加者は、バスでの輸送を基本とします。
- バス会社は県内に車庫を持つバス会社を中心に手配をします。
- 招待者のバスについては、添乗した実施本部員が、植樹や式典の日程説明や誘導業務を行います。
- 県外招待者を対象とした視察バスについては、旅行会社のスタッフが添乗します。
- バスをはじめとした輸送手段には最大限まで環境配慮を行い、排出ガス規制対応バス、及び排出ガス規制対応装置を装着したバス等の低公害車をできる限り手配します。

参加者区分	使用車両	台数	実施本部員	備考
両会場招待者	乗用車等	30	接伴員	出迎え・見送り・添乗・誘導
県外招待者	バス	60	添乗員	各種案内・誘導・視察案内
県内招待者		160		各種案内・誘導
実施本部員・協力員 出演者・出展者等		未定	担当班長等	

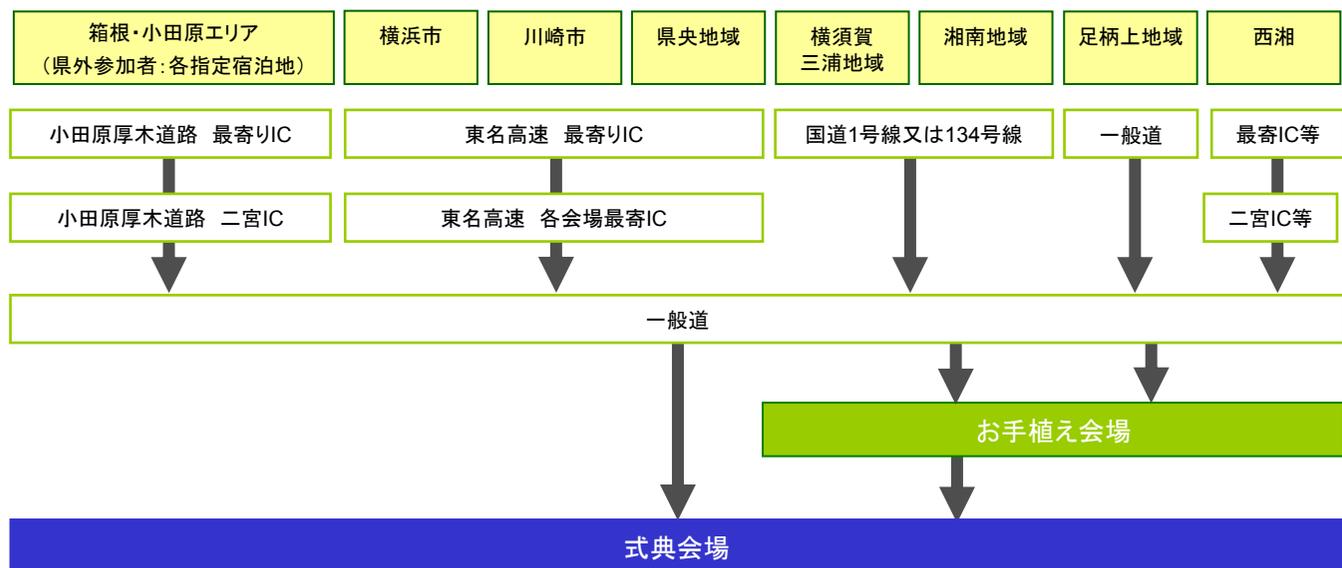
(2) 輸送フロー

- 招待者は、各宿泊施設又は、予め指定された集合地において主催者の準備した車両
を利用し、各会場に向かいます。



(3) 輸送ルート

■往路 バス輸送



(4) 復路 バス輸送

- 復路は、原則として、往路と同じルートとしますが、バスの集中を避けるため、一般国道や県道等を利用するルートも検討します。

■お手植え会場・式典会場周辺のバス輸送ルート



(5) 運行管理体制

- 式典会場周辺に輸送管理本部を設置し、運行状況の管理を一元的に行います。
- 植樹祭参加車両の運行状況を把握し、安全で円滑な運行体制を実現するため、輸送ルート上にチェックポイント、休憩所、バス運行調整地を設置し、それぞれ係員を配置し、携帯電話や無線機等によりリアルタイムの連絡体制を確保します。

①休憩所、チェックポイント、調整地

○休憩所

輸送時間が60分を超える場合に、休憩所でトイレ休憩をとります。

○チェックポイント

通過車両を確認し、運行状況の把握、緊急時の対応等を行います。

○調整地

会場内への車両の入り込みを円滑に進めるため、係員が輸送バスの車両確認を行い、車両区分ごとに会場に出発させます。

②指定集合地

県内招待者の集合地として、県の合同庁舎・市役所等の大型駐車場を県内各地に指定し、効率的な輸送を行います。

(6) 駐車場計画

- バス等の駐車場は会場周辺で確保します。

■お手植え会場駐車場

駐車場名	台数	備考
足柄森林公園丸太の森駐車場	40 台	
	(40) 台	植樹後、式典会場へ移動
合 計	40 台	

※出演者・出展者、実施本部員等、関係者用車両の駐車場は、別途確保します。

■式典会場駐車場

番号	駐車場名	台数	備考
1	島津製作所グラウンド	140 台	
2	秦野市総合体育館及び文化会館臨時駐車場	40 台	お手植え会場からの到着
	合 計	180 台	

※出演者・出展者、実施本部員等、関係者用車両の駐車場は、別途確保します。

(注) 詳細については、輸送計画の具体化と並行して、実施計画で定めます。

(7) 道路交通対策

- お手植え会場及び式典会場周辺の道路や植樹祭招待者の輸送ルートにあたる道路については、事前に道路管理者と協議の上、道路工事や道路占用許可等の必要な措置を講じます。
- 交通対策については、植樹祭招待者及び周辺住民等の交通の安全の確保と車両の円滑な運行を行うため、関係機関の協力を得て、交通整理、交通規制等を実施します。

4 視察計画

- 招待者を対象に、神奈川県豊かな自然、観光名所、歴史、文化等を紹介できるような視察コースを設定します。
- 視察箇所の選定にあたっては、森林や自然、食文化を紹介できる施設や体験型施設をできる限り取り入れることとします。
- 輸送手段を中心として、各旅程中に環境配慮やCO2削減、ゼロエミッションなどを盛り込んだ設定をします。

■主な視察候補地

エリア	候補地 (50音順)
横浜・川崎地域	赤レンガ倉庫、生田緑地、大榎橋、岡本太郎美術館、三溪園、中華街、日本民家園
横須賀三浦地域	円覚寺、観音崎公園、京急油壺マリンパーク、高德院、極楽寺、小町通り、猿島、城ヶ島公園、ソレイユの丘、鶴岡八幡宮、長柄桜山古墳群、長谷寺、ペリー公園、三崎フィッシャリーナ・ウォーフ（うらり）、三笠公園
県央地域	あつぎつつじの丘公園、大山、県立七沢森林公園、東丹沢グリーンパーク、宮が瀬ダム、龍峰寺
湘南地域	あやめの里、江ノ島、表丹沢野外活動センター、花菜ガーデン（県立花と緑のふれあいセンター）、くずは溪谷、弘法山公園、桜土手古墳公園、寒川神社、湘南平展望台、震生湖、新林公園、田原ふるさと公園、鶴巻温泉 弘法の里湯、長久保公園、日向薬師
足柄上地域	アサヒビール園、あしがり郷瀬戸屋敷、あじさいの里、最乗寺、丹沢湖、丹沢森林館、西丹沢県民の森、西丹沢自然教室、富士見塚、米倉寺、松田山ハーブガーデン
西湘地域	芦ノ湖、大涌谷、小田原市いこいの森、小田原さかなセンター、小田原城、かまぼこ博物館、県立生命の星・地球博物館、駒ヶ岳、小涌谷、早雲寺、箱根強羅公園、箱根湿生花園、箱根神社、箱根関所、箱根ベゴニア園、箱根やすらぎの森、畑宿寄木会館、不動滝、蓬莱園、真鶴半島自然公園、万葉公園

1 基本的な考え方

- 神奈川県全体を全国植樹祭のステージとして、多くの県民に参加していただき、全国植樹祭で発信する神奈川県の森林再生の取組を広く理解していただけるようサテライト会場を設置します。
- サテライト会場で実施するイベントでは、各地域で活動する方々と協働し、地域の特性に応じた森林再生の取組を発信します。
- イベントの実施については、環境に配慮して運営します。

2 開催概要

①開催期日

平成22年春季

■第61回全国植樹祭開催4ヶ月前から当日までの間

②実施行事

■体感行事

全国植樹祭と共通の取組を体感できるもの

- ・来場者による植樹会場での植樹
- ・代表者等による記念植樹
- ・企業・団体・学校・個人による持ち帰り植樹
- ・来場者による樹木の種まき、持ち帰り育成、植樹 等

■情報発信

全国植樹祭の趣旨（森林づくり・森林再生の取組）の理解を促進するもの

- ・森林づくり等のパネル展示
- ・森林に関するシンポジウム・トークショー
- ・森林づくり活動団体の発表 等

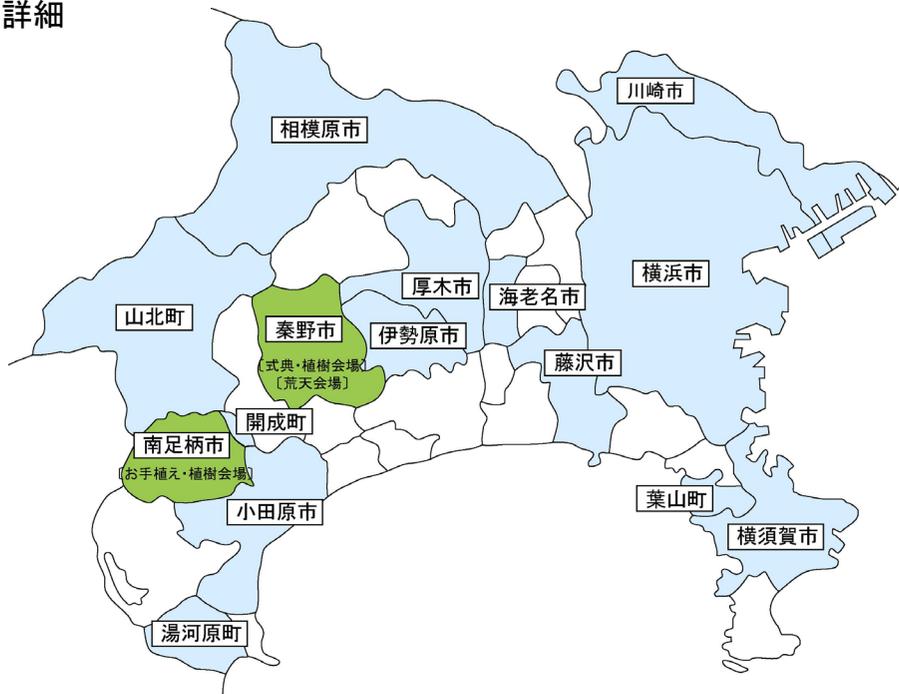
■関連行事

森林への親しみを深め、森林への恵みを感じるもの

- ・木とのふれあい体験
- ・自然とのふれあい体験
- ・県産木材の展示
- ・県内林産物の紹介 等

式典当日に開催する数箇所の会場については、式典等の映像中継を行い、会場間の一体感を高めます。

③各会場詳細



会場	コンセプト	開催日	場所	来場者数
横浜会場	市民による緑豊かな環境づくり	全国植樹祭開催日	未定	1千人
川崎会場	市民が進める多摩丘陵の森づくり	平成22年5月中旬	未定	5千人
横須賀・葉山会場	人を育て、人が憩う 次世代に引き継ぐ森づくり	平成22年5月上旬	湘南国際村	2千人
藤沢会場	みんなで育てよう 「湘南藤沢の緑と水」の街づくり	全国植樹祭開催日前日	引地川親水公園一帯	1千人
小田原会場	生活環境を守るふるさとの森づくり	①平成22年3月中下旬	①ふるさとの森づくり 運動実施箇所	2千人
		②平成22年4月下旬	②こどもの森公園 わんぱくらんど	
相模原会場	未来へ引き継ぐ水源の森林づくり	平成22年4月上旬	未定	2万人
厚木会場	潤いやすらぎを感じられる 緑の街づくり	平成22年4月中下旬	未定	4万人
伊勢原会場	私たちの美しいふるさと 花と緑のまちづくり	平成22年5月上旬	伊勢原市総合運動公園	2万人
海老名会場	緑あふれる心のふるさと えびなの森づくり	全国植樹祭開催日	海老名中央公園 海老名市役所	4万人
山北会場	町民とつくる未来につなげる 美しい森づくり	平成22年4月29日	大野山山頂	3千人
開成会場	町民による緑あふれる 住みよい街づくり	全国植樹祭開催日 を含む2日間	中家村公園	1千人
湯河原会場	四季彩のまちづくり	平成22年2月中旬	湯河原梅林公園 及び桜郷地区	1万人
				計 14万5千人程度

④荒天時等対応

荒天時等の対応は、サテライト会場ごとに判断します。

1 基本的な考え方

- 暴風雨、集中豪雨等の荒天に見舞われ、晴天会場での式典実施が困難になった場合は、荒天会場で式典を実施します。
- 荒天会場での実施については、実施期日の1週間前から随時情報収集に努め、その判断を行うものとします。
- 荒天会場での実施決定に備え、関係機関と万全の連絡体制を構築し、円滑な実施運営を行います。

2 荒天会場

- 秦野市総合体育館（秦野市平沢）



3 開催規模

- 荒天時式典の参加者は、招待者900人、実施本部員等300人の計1,200人程度とします。

区分	内 訳	人数 (人)
両会場招待者	国務大臣、県議会議長、次期開催県知事、開催会場市長等	30
県外招待者	中央官庁、中央団体、受賞者等	270
県内招待者	県選出国會議員、県議会議員、実行委員会委員、受賞者、公募招待者（地元）等	600
スタッフ	実施本部員・協力員等	300
	合 計	1,200

4 荒天時運営計画

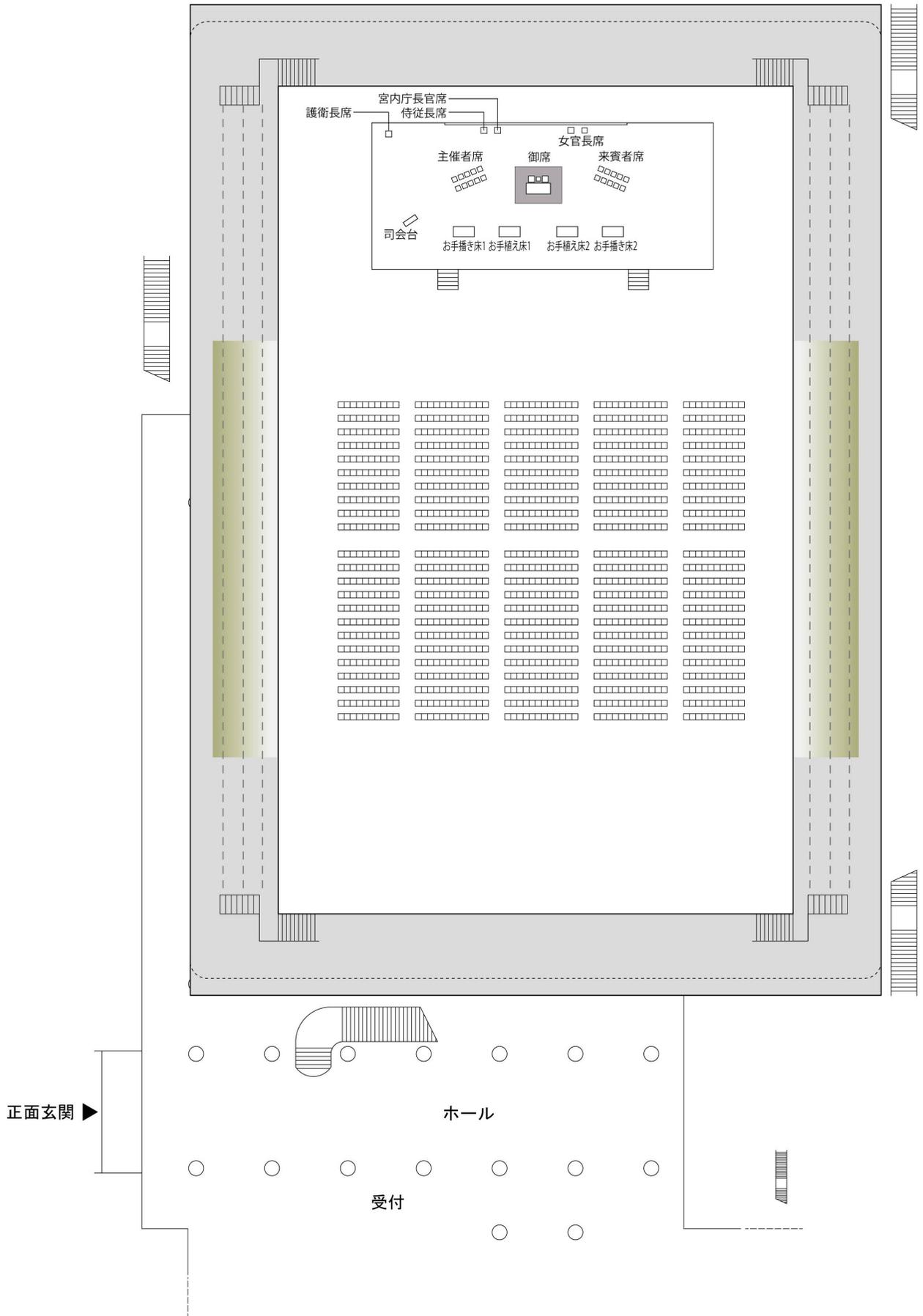
(1) 荒天時運営計画

- 荒天時の式典行事は、次の式典プログラムのとおり、アトラクション及び代表者記念植樹を除いた構成とします。
- 式典音楽は、事前収録した音源やCD等を使用します。
- 式典の時間は、50分程度とします。

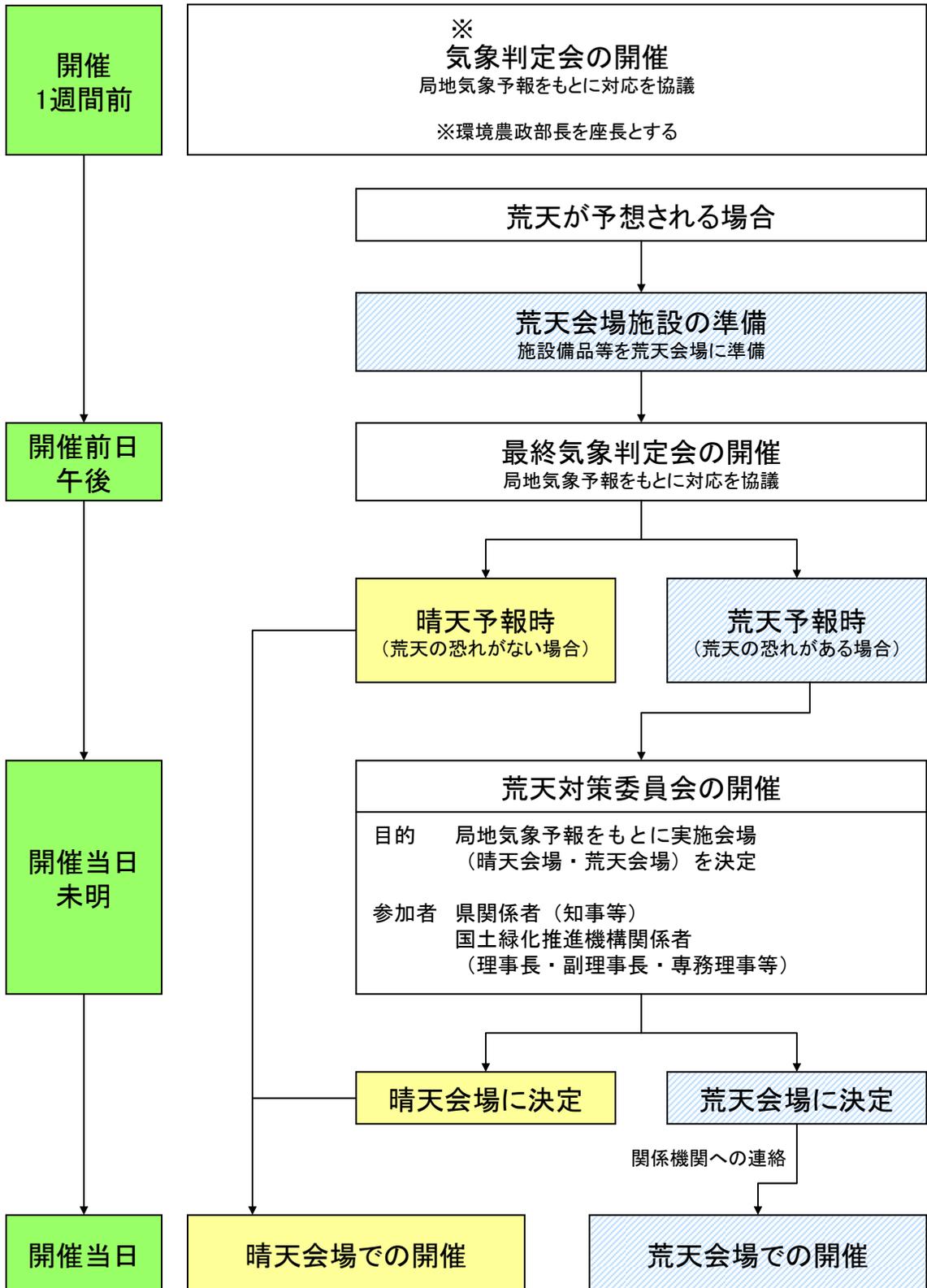
(2) 式典プログラム

招待者入場	
11:00	式典案内
式典	
11:10	天皇皇后両陛下 御着 開会のことば 国歌斉唱 主催者あいさつ 表彰 苗木の贈呈 天皇皇后両陛下のお手植え、お手播き 大会宣言 リレーセレモニー 閉会のことば
11:56	天皇皇后両陛下 御発
招待者退場	

5 荒天会場施設配置図



6 荒天時への切り替えシステム



※地震や突発事案などの緊急事態が発生した場合、開催の可否についての判定会議を開催します。

※判定会議のメンバーや招集方法、また、大会中止の判断基準とその対応についてのガイドラインを設定します。

1 基本的な考え方

- 全国植樹祭の開催を契機に、「かながわ森林再生50年構想」を促進するため、県民、活動団体、事業者、市町村が一体となり、神奈川力をもって取り組みます。
- 全国に先駆けて、森林再生の取組を積極的に行ってきたNPO等とともに、さらなる県民運動の発展を目指します。
- 全国植樹祭の開催に関わるすべての参加者に、森林再生への参加を呼びかけ県民運動の広がりを目指します。
- 県民誰もが参加しやすい運動形態とし、地域の活動と連携し地域の特性を生かした取組を展開します。
- 継続的に拡大、広がる運動を目指します。

2 運動の進め方

- 現在取組まれているNPO等の活動、市町村の活動、事業者の活動と連携・協働し、県民運動の軸を構築し、全県的な運動の展開を、神奈川力を持って、取り組みます。
- 県民一人ひとりの自発的、積極的な活動を基本として、展開します。
- 全国植樹祭への参加や、県民運動へ参加いただいた県民一人ひとりが、開催理念や目的、体験・経験したことをインタープリターとして、身近な人へ、伝え、発信し、県民全体への広がりを促進します。
- 参加しやすい運動形態をとるとともに、幅広く広報活動することで、県民の参加機会を促進します。
- かながわ森林再生50年構想推進の原動力として、また継続的な運動に発展させるため、森林づくり活動団体をはじめとしたNPO等との協働をさらに進めるとともに、全国植樹祭開催後にも継続的に実施する取組等を検討していきます。

■ 県民参加の方向性

区分	参加機会の例	参加対象項目						
		県民 (一般公募)	NPO団体	青少年団体	地域団体	文化芸能団体	林業関係団体	その他 (学校等)
広報関連	・大会テーマ、シンボルマーク、大会ポスター原画等の一般公募	○						
植樹関連	・植樹指導 ・第61回全国植樹祭で植樹された樹木の管理・育樹		○	○			○	○
式典関連	・植樹介添え ・表彰、アトラクション等		○	○		○		○
運営関連	・会場案内、清掃、ゴミの分別指導など		○	○	○			○
会場整備関連	・森林整備、飾花、清掃、装飾活動など	○	○	○	○	○	○	○
記念事業	・ブレ全国植樹祭 ・ポスト植樹祭 ・苗木のホームステイ(ドングリからの苗木づくり) ・森のリレーフェスタ ・子ども森林教室(仮称) ・カウントダウンセレモニー	○	○	○	○	○	○	○
関連事業	・全国林業後継者大会 ・森林循環フェア ・水源林のつどい ・成長の森づくり ・定着型ボランティア ・水源林パートナー ・開催会場市(秦野市、南足柄市)の取組 ・サテライト会場設置市町の取組	○	○	○	○	○	○	○
その他	・NPO等による自主企画事業の実施 ・個人、企業、団体による協賛金	○	○			○		○

注：○印は特に参加を意識した対象項目であり、無印の場合でも参加可能

3 県民運動を促進する、神奈川力について

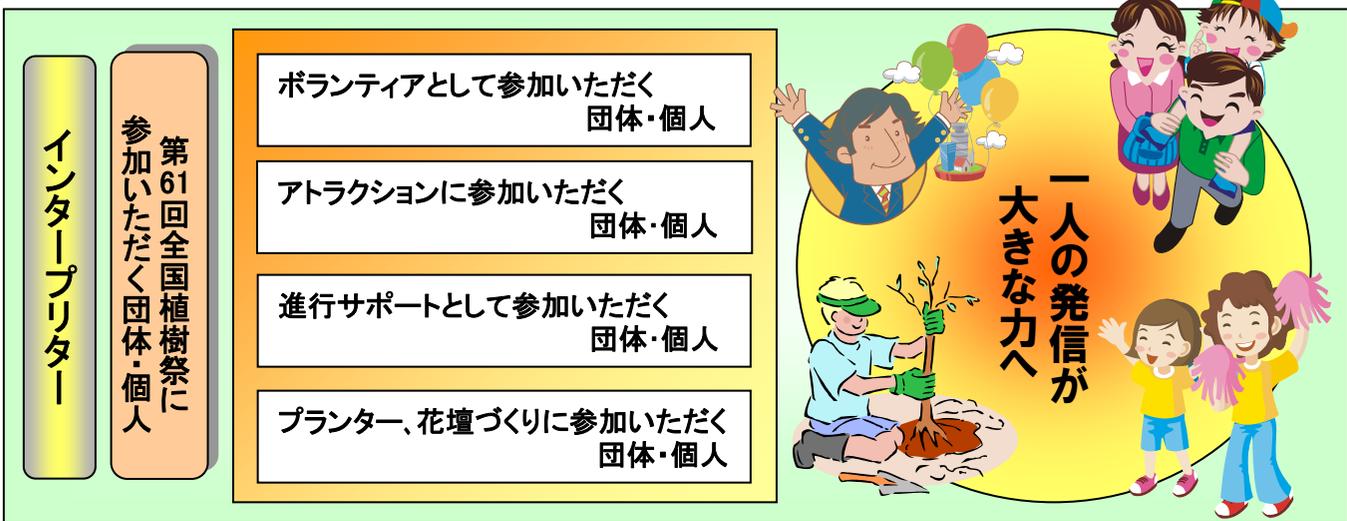
- 県民運動を促進するために、神奈川力を発揮します。
- 県民運動の積極的参加を促進し、参加された県民一人ひとりが、身近な人へ、伝え、発信し、県民全体への広がりを目指します。
- 神奈川力の考え

全国植樹祭における、神奈川力とは、地域活動団体、事業者、市町村等と実行委員会が連携、協働し展開する事業の総合力であり、またこの事業や、全国植樹祭に参加される、県民一人ひとりの自発的発信力を最大限に生かし、生み出される力の広がりを、神奈川力と考えます。



4 運動の推進組織

- 第61回全国植樹祭神奈川県実行委員会が、関連団体、事業者、市町村と連携、協働しながら、県民運動を円滑に推進します。
- 県民運動の軸になる関係団体の事業や、全国植樹祭にいろいろな角度で参加されるすべての県民が、運動を進める一員としての役割を担い、幅広く広がる組織を目指します。



**記念事業及び関連事業や、全国植樹祭に参加された
一人ひとりがインタープリターとなり
さらに多くの県民へ広がり、未来へと継続します。**

インタープリターとは、解説者・通訳者という意味です。
野外でこの言葉を使う場合、自然解説者とか自然案内人として使われています。自然は多くの事柄を私たちに語りかけていますが、それらはいわゆる言葉や文字ではないものです。
そんな自然からのメッセージを、身近な方に解りやすくお伝えし、県民運動（森林再生に必要な取組）への参加へのご案内するのが、インタープリターです。

1 基本的な考え方

- 記念事業・関連事業等では、全国植樹祭の開催PR、開催への機運の盛り上げ、森林再生の取組のPRを図るとともに、森林のもたらす恵みや手入れの必要性などについて県民に広くアピールしていきます。
- 全国植樹祭の開催を契機とした記念事業、関連事業を通じて、森林再生に向けた県民協働の取組をさらに広め、かながわ森林再生50年構想を促進していきます。
- かながわの特性である、都市部、山間部、沿岸部のそれぞれの環境を踏まえ地域特性を生かした展開を目指します。
- 子どもから、お年寄りまで幅広い参加を促すため、楽しみながら体験できるプログラムや、幅広い参加形態で構成します。

2 記念事業の内容

全国植樹祭の目的を達成するため、第61回全国植樹祭神奈川県実行委員会が主体となって行事等を実施します。実施にあたっては、県民参加を図るとともに、参加者同士が互いに交流・協力・知識の習得等をしあえるよう配慮します。

■プレ全国植樹祭

第61回全国植樹祭の開催PRと機運の盛り上げ、森林再生の必要性のPRを目的として開催します。

- 時期 平成21年春季
- 場所 秦野戸川公園、足柄森林公園丸太の森及びその周辺
- 規模 約1,000人
- 内容 交流記念植樹・式典、アトラクション、体験参加型イベント、特産品販売、パネル展示など

■ポスト植樹祭

第61回全国植樹祭開催後も開催理念を伝え広げるため、植樹や育樹の体験型イベント等を行い、県民参加による森づくりを継続します。

- 時期 平成22年春季以降
- 場所 県内各地
- 内容 植樹、育樹、自然観察会、木工体験、その他森林体験など

■苗木のホームステイ(ドングリからの苗木づくり)

全国植樹祭で使用する苗木の一部を育成するため、地元小学生等の参加を募り開催会場周辺でドングリを採取し、現在、「苗木のホームステイ」という取組により小学生等に苗木の育成を行っていただいています。これらの活動を通じて、緑の大切さを伝え、子どもたちの森づくりへの関心を高めます。

- 時期 平成19年秋季～平成22年春季
- 場所 ドングリ採取：秦野市・南足柄市会場周辺
苗木の育成：秦野市・南足柄市の小学校、
県内の緑の少年団
- 規模 参加者 約2,000人
育成ポット数 約3,300ポット
- 内容 ドングリ採取、ドングリから苗木を育成、全国植樹祭で使用



■森のリレーフェスタ

大会の機運を全県的に盛り上げていくために、「植える」・「育てる」・「活用する」といった取組を県民の皆様にご体験していただくイベントを開催します。全国植樹祭開催までの間に、県内各地をリレー方式で回りながら実施します。

- 時期 平成20年7月～平成22年春季
- 場所 県内各地(サテライト会場設置市町を中心として)
- 規模 各回100名程度、7回程度実施
- 内容 植樹、育樹、自然観察、森林体験など



■子ども森林教室（仮称）等

小中学生程度を対象とした子ども森林教室を行い、子どもたちの森づくりへの関心を高めるとともに、知識向上を目指します。また、森林再生の取組を進めるNPOや企業等と連携・協働して行い、植樹祭開催後も継続することを目指します。

- 時期 平成21年度～
- 場所 県内各地
- 内容 自然観察、森林体験など

■カウントダウンセレモニー

全国植樹祭当日にご参加いただく一般参加者の公募開始にあわせ、有識者による講演等を行うとともに、森林再生の取組を進めるNPO等の活動発表を実施し、県民に広く全国植樹祭への参加をアピールします。また、カウントダウンを開始し開催への機運を高めます。

- 時期 平成21年秋季
- 場所 横浜市内
- 規模 約1,000人
- 内容 講演、森林再生活動発表、カウントダウンなど

■全国植樹祭の記録誌発行、記録映像作成

第61回全国植樹祭のお手植え、式典、植樹行事をはじめ、各種の記念行事や県民運動の活動状況等を、記録誌や記録DVD等にまとめます。

■記念碑の建立

第61回全国植樹祭の開催を記念して、天皇陛下の御製(和歌) ぎよせいとともに記念碑を建立します。

3 関連事業等の内容

関連団体が企画・運営する事業のうち、全国植樹祭の目的と関わりが深く、互いに連携していく必要がある事業を関連事業と位置づけ取り組んでいきます。

■第39回全国林業後継者大会

全国の林業関係者が一同に会して意見交換を行うとともに、林業の振興と森林づくりの重要性を再認識し、未来の森づくりへ繋げていくための大会とします。

- 時期 平成22年春季（第61回全国植樹祭開催日の前日）
- 場所 未定
- 内容 シンポジウム、活動報告など

■森林循環フェア

「森林資源の循環」の仕組みを再構築していくため、森林づくりや木材に対する県民の関心を高めるとともに、林業・木材産業並びに家づくりや家具づくりの関係者等の連携を図り、県産木材のより一層の利用を促進するため開催します。

- 時期 毎年秋季
- 場所 未定
- 規模 約15,000人
- 内容 企画展示、県産木材木工コンクール、ブース出展、体験コーナー、住宅相談会、クイズラリー

■水源林のつどい

神奈川県における水源の森林づくりへの理解を深めていただくため、森林再生に取り組むNPOや企業等と連携・協働して開催します。

- 時期 毎年秋季
- 場所 やどりき水源林（松田町寄）
- 規模 約500人
- 内容 水源林トレッキング、間伐体験、木工工作、森のコンサート、野点、森のゲームなど



■成長の森づくり

神奈川の森林再生のための象徴的な取組として、赤ちゃんが生まれたご家族等を参加者とし、赤ちゃんの誕生を記念して「成長の森」をつくり、次の世代へ引き継いでいくことを目的として実施します。

- 時期 平成19年秋季～
- 場所 やどりき水源林（松田町寄）
- 内容 植樹（参加者による苗木の寄附）、見学会など



■定着型ボランティア

県の水源林の一定エリアを10年間、活動フィールドとして提供を受けた参加グループが、森林づくりの目標をもって、主体的な森林づくりの活動を行っていただく取組を進めます。

- 時期 平成19年度～平成29年度
- 場所 やどりき水源林（松田町寄）
魚止めの森（相模原市津久井町鳥屋）など
- 内容 森林づくり活動など

■水源林パートナー

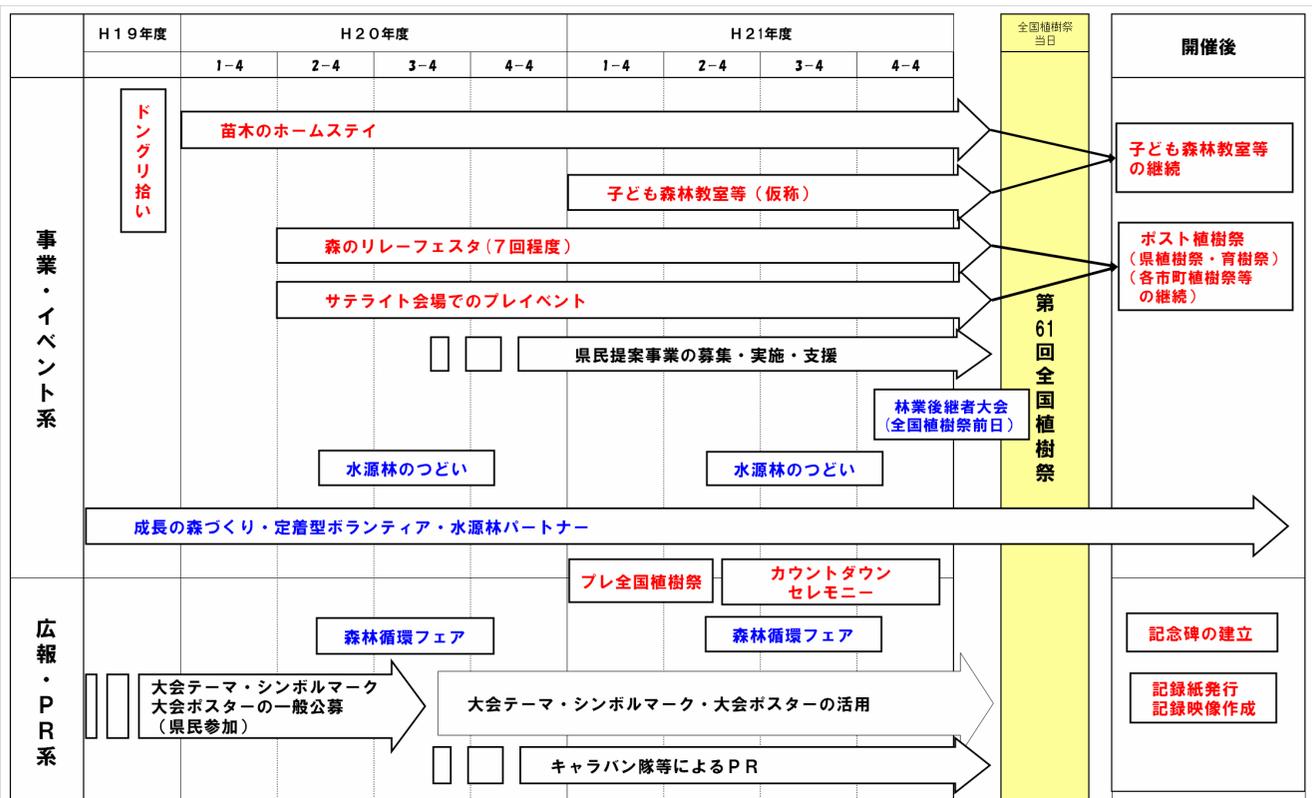
企業・団体等(水源林パートナー)から5年間以上継続した寄附をいただくとともに、森林活動により水源の森林づくりに参加協力をいただく取組を進めます。

- 時期 毎年(通年)
- 場所 やどりき水源林（松田町寄）など
- 内容 森林づくり活動など

記念事業・関連事業等については、本計画に記載の事業の他、実行委員会や県主催事業をはじめ、開催会場である秦野市・南足柄市やサテライト会場の設置市町及び関係団体等の連携協力のもと、大会趣旨にふさわしい多くの行事等を展開し、全国植樹祭を盛り上げていきます。

〔実施事業の展開〕

※記念事業
※関連事業
※その他(広報・協賛等含む)



1 基本的な考え方

- 広報活動や企業協賛を通じて、大会の開催を広くPRするとともに、開催への機運を高めてまいります。
- これらの活動を通じて、神奈川の森林の現状やそれを再生していくための手段なども併せて周知し、森林づくりの県民運動への参加につなげてまいります。

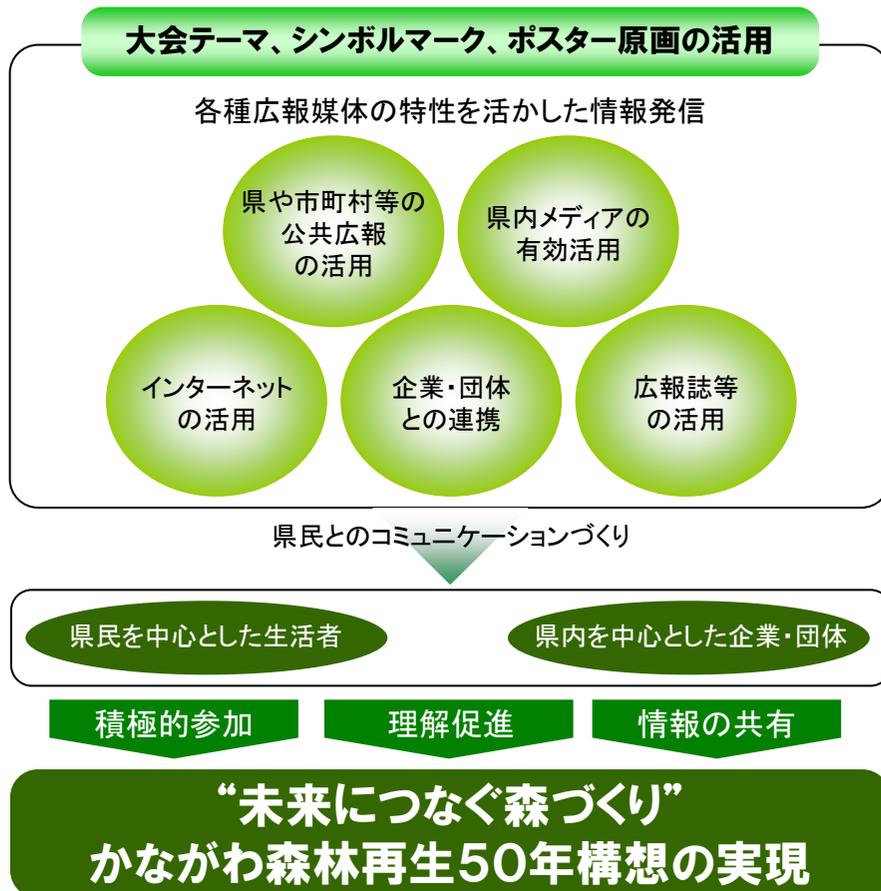
2 広報計画

(1) 広報計画の考え方

各種媒体を活用し、わかりやすく、タイムリーな情報の発信により、全国植樹祭を周知するとともに、大会や県民運動への参加を呼びかけます。

- 全国植樹祭の開催と、森林のもたらす恵みや手入れの必要性などについて、県民に広くアピールし、森林の再生に向けた協働の取組みを前進させます。
- 各種広報媒体の特性を活かした情報発信による、県民との“コミュニケーションづくり”により、全国植樹祭の県民運動の推進を図ります。
- 全国植樹祭や各種記念事業について、広く県民に発信し、開催に向けた機運を醸成します。
- 公募により、決定した大会テーマ、シンボルマーク、ポスター原画を各種パンフレットなどに活用し、第61回全国植樹祭の開催を県内外に広報します。

(2) 広報の展開方向



(3) 県や市町村等の公共広報の活用

県の広報番組（テレビ、ラジオ）を有効活用し、情報提供を行います。
各種の公共広報媒体と連携したPR活動を展開します。

市町村広報誌への情報提供による大会記事掲載や市町村主催イベント等での広報活動との連携を図ります。

全国植樹祭の開催理念や準備の進捗状況、各種記念事業の開催案内やその結果などを発信し、大会のPRと開催機運の醸成を図ります。

(4) 県内メディアを中心とした各種メディアの有効活用

全国植樹祭、記念行事、県民運動等を伝えるために、県内の新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット、交通広告等のそれぞれの媒体特性を活かした適時・適切な情報発信を行います。

(5) インターネットの活用

第61回全国植樹祭の公式ホームページを活用し、「各種イベント」の実施や「神奈川の森林づくり」に関する取組みを積極的に情報発信するほか、各種申込等についてもインターネットを効率的に利用します。

インターネットメディアの特性である『広域性』『即時性』に留意した情報発信を行います。

- 新着情報の即時更新によるタイムリーな情報の提供
- 網羅的でわかりやすく、見やすい情報の提供
- 各種関連団体等との相互リンクの充実

(6) 企業・団体との連携

神奈川の協働力を発揮し、県内を中心とした企業・団体の支援協力による広報活動を展開します。

(7) その他の広報

①定期広報誌の発行

「全国植樹祭だより」などの定期広報誌の発行を行い、「第61回全国植樹祭」の開催準備の状況、県民運動、記念事業等に関する情報を定期的に情報誌によって発信し、周知します。

②PR用品の作成・配布

第61回全国植樹祭のシンボルマーク等をデザインしたうちわ（間伐材活用）やポケットティッシュなどを作成し、各種の行事で配布し、大会イメージの定着及び大会開催機運の醸成を図ります。

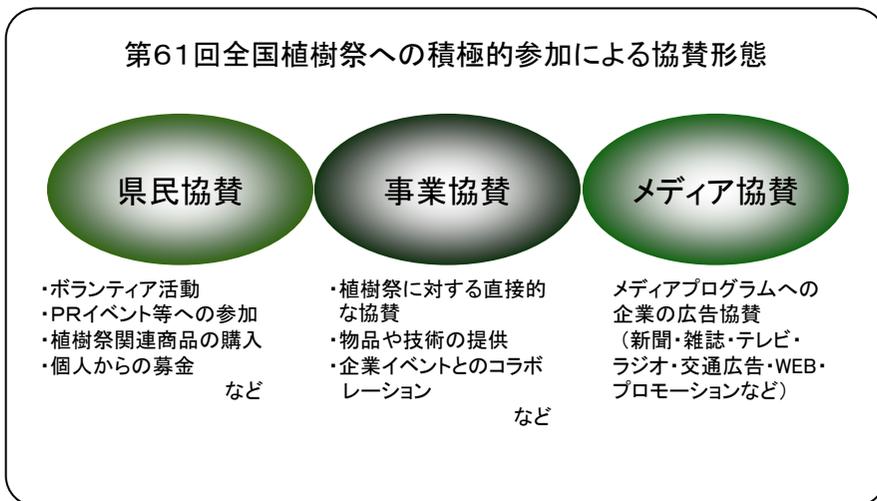
3 協賛計画

(1) 協賛計画の考え方

全国植樹祭を一過性のイベントとして終わらせることなく、これを契機として県民運動を加速していくため、県内の企業や団体、個人に対し、広く支援を求めていきます。

- 協賛は“財源”として捉えるのではなく、“それぞれが持つ力の結集”と位置づけます。
- 県民や県内企業を中心に、持続可能な活動としての森林づくりの意義や必要性を、理解していただくよう求めていきます。

(2) 協賛形態



それぞれの協賛の結集

第61回全国植樹祭の成功

荒廃した森林の再生

時代の要請に応じた
森林への転換

“未来につなぐ森づくり”
 かながわ森林再生50年構想の実現

かながわ森林再生50年構想

県内には、丹沢大山や箱根といった山々から、里山や市街地近郊の樹林地まで約9万5000㍍、県土の40%近くを占める森林があります。今、この森林が、丹沢大山でのブナやモミの立ち枯れだけでなく、山地や里山まで県内各地で、手入れ不足などにより荒廃が進んでいます。

県では、前の世代から引き継いだ森林の様々な恵みを子や孫に手渡すため、50年かけて、皆さんとともに森林再生の取組を進めていきます。

広葉樹林の再生

- 丹沢大山では、ニホンジカによる下草や低木の過度の採食を防ぎつつ、後継樹を育成し、多様な樹種による原生的な自然林に誘導していきます。
- かつて薪や炭の原木として利用され、その後放置されている山地や里山の二次林では、間伐を繰り返すことで陽光を入れ、周辺の多様な広葉樹を林内に導入するなど自然力を利用して、多様な樹種からなる自然林に誘導していきます。
- なお、土壌流出の著しい溪畔林などでは、自然力に頼るだけでなく積極的に広葉樹の植樹を行います。

人工林から混交林への転換

- 林道から200㍍以上離れたスギ・ヒノキの人工林では、間伐を繰り返すことで陽光を入れ、周辺の多様な広葉樹を林内に導入するなど自然力を利用して、混交林や巨木林に誘導していきます。
- なお、急傾斜地や、周囲が人工林ばかりで広葉樹の導入が期待できないところなどでは、自然力に頼るだけでなく積極的に広葉樹の植樹を行います。

人工林の再生

- 林道から200㍍以内のスギ・ヒノキの人工林では、間伐を行い、木材として利用するとともに、伐採後は、花粉の少ないスギ・ヒノキや今後実用化する無花粉スギを植栽し、複層林などに誘導していきます。

50年後のめざす姿と主な取組み



【全体スケジュール】

年度	月	重要事項	主なイベント	広報等		
平成20年度	1月			大会テーマ、シンボルマーク等		
	2月	基本計画決定				
	3月		森のリレーフェスタ			
平成21年度	4月	実施計画(案)策定		企業協賛活動・キャラバン活動		
	5月		プレ全国植樹祭		森のリレーフェスタ	
	6月		●福井県大会参加			
	7月					
	8月		森のリレーフェスタ			
	9月		大会開催日決定			
	10月		カウントダウンセレモニー			
	11月		実施本部設置			
	12月				森のリレーフェスタ	
	1月					
	2月		実施計画決定			
	3月		各サテライト会場でイベント実施			
	平成22年度		4月			林業後継者大会
5月		第61回全国植樹祭				
6月						
7月						
8月						
9月			ポスト植樹祭の実施			
10月			大会理念の継承			
11月						
12月						
1月						
2月				●大会記録誌、記録DVD、記念碑の製作		
3月		●実行委員会解散				



大会ポスター原画 画題「温かい緑」

**第61回 全国植樹祭 基本計画
平成21年2月**

神奈川県環境農政部森林課全国植樹祭推進室

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

TEL 045-210-4373 FAX 045-210-8855

ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/sinrin/zensyoku/>

または、「第61回全国植樹祭」で検索してください。